

第1節 人口

人口減少と高齢社会

宮城県の人口は、令和2（2020）年国勢調査によると約230万2千人ですが、令和7（2025）年の推計人口は222万7千人で、7万5千人減少する見込みです。

また、高齢化率は令和2（2020）年の28.1%から令和7（2025）年には31.2%に増加する見込みであり、県民のおよそ3人に1人が65歳以上の高齢者という極めて高齢化の進んだ社会が到来すると見込まれています。循環器病は、加齢とともに患者数が増加する傾向にあるため、高齢化を踏まえたより一層の対策が必要です。

《図表2-1-1①》宮城県の年齢3区分別人口の推移（昭和25年～令和2年）

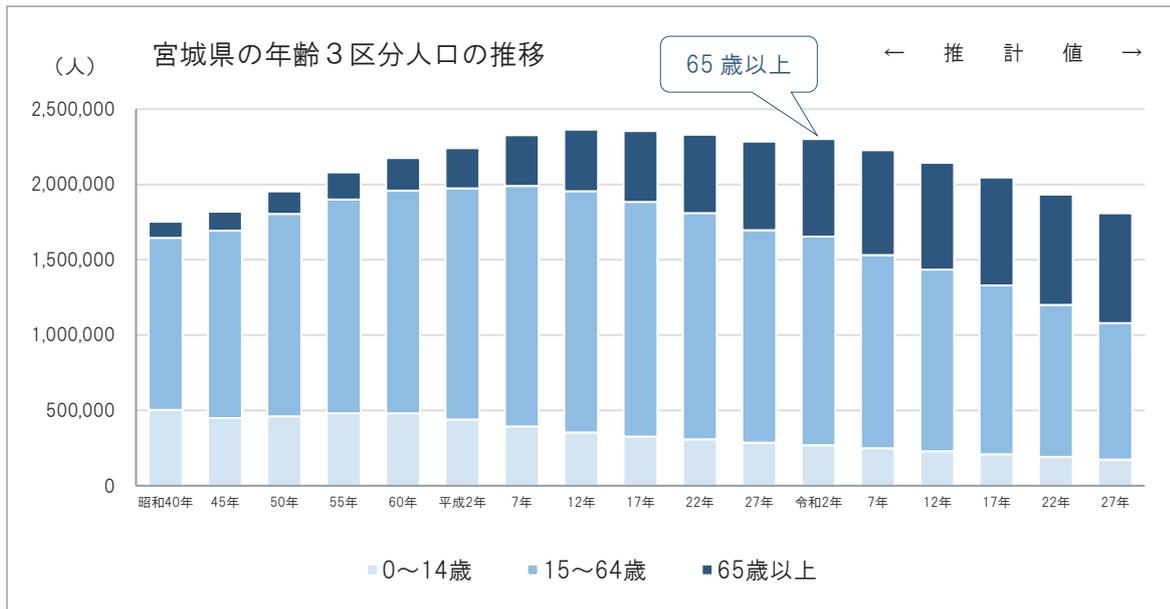
	人口(人)				割合(%)			
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上
昭和25年	1,663,442	620,274	975,587	67,520	100.0	37.3	58.6	4.1
30年	1,727,065	619,598	1,025,790	81,670	100.0	35.9	59.4	4.7
35年	1,743,195	584,497	1,063,732	94,966	100.0	33.5	61.0	5.4
40年	1,753,126	503,630	1,141,867	107,629	100.0	28.7	65.1	6.1
45年	1,819,223	448,834	1,244,711	125,678	100.0	24.7	68.4	6.9
50年	1,955,267	460,953	1,343,632	150,010	100.0	23.6	68.7	7.7
55年	2,082,320	480,552	1,419,497	180,689	100.0	23.1	68.2	8.7
60年	2,176,295	480,899	1,478,820	215,457	100.0	22.1	68.0	9.9
平成2年	2,248,558	439,313	1,535,449	266,759	100.0	19.5	68.3	11.9
7年	2,328,739	394,331	1,595,534	337,520	100.0	16.9	68.5	14.5
12年	2,365,320	353,516	1,601,826	409,156	100.0	14.9	67.7	17.3
17年	2,360,218	325,829	1,558,087	470,512	100.0	13.8	66.0	19.9
22年	2,348,165	308,201	1,501,638	520,794	100.0	13.1	63.9	22.3
27年	2,333,899	286,003	1,410,322	588,240	100.0	12.5	61.7	25.7
令和2年	2,301,996	268,931	1,385,425	647,640	100.0	11.7	60.2	28.1
7年	2,227,471	248,940	1,282,718	695,813	100.0	11.2	57.6	31.2
12年	2,143,601	228,867	1,205,387	709,347	100.0	10.7	56.2	33.1
17年	2,046,219	208,564	1,121,287	716,368	100.0	10.2	54.8	35.0
22年	1,933,258	191,022	1,009,234	733,002	100.0	9.9	52.2	37.9
27年	1,809,021	173,630	905,996	729,395	100.0	9.6	50.1	40.3

※
↑
推
計
値
↓

出典：昭和25年～令和2年は国勢調査（※令和2年は「不詳補完値」を算出し3区分別人口を割り出しているため、最終確定値の値と異なります）

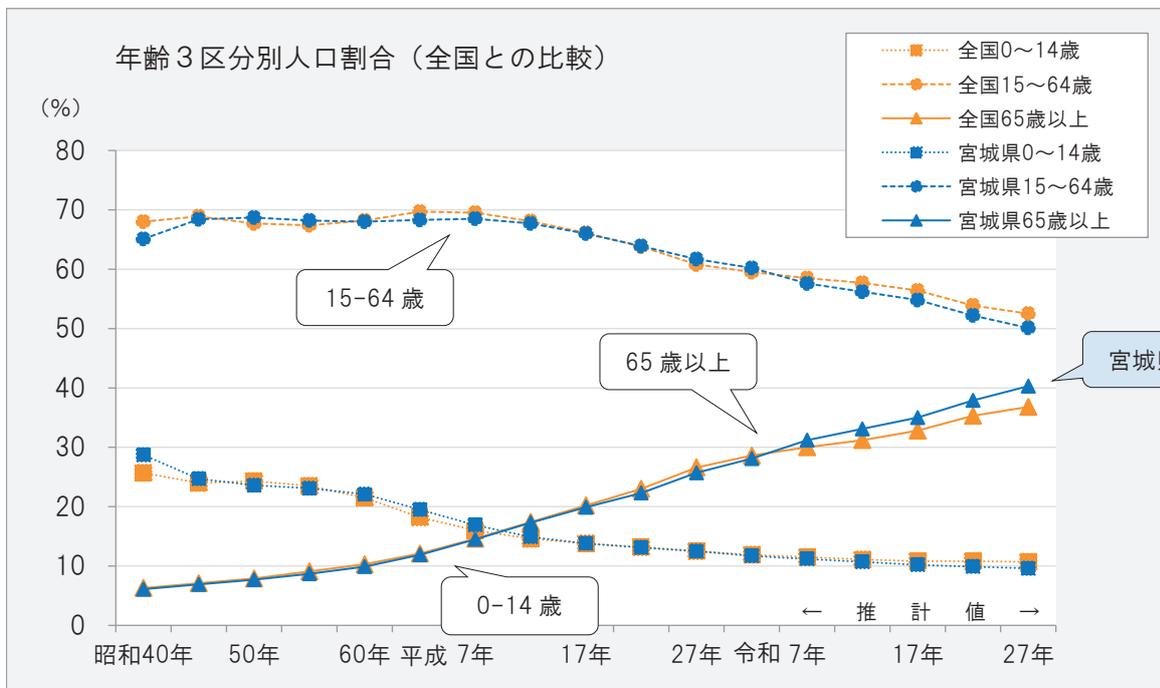
令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」（平成30年3月推計）による。ただし、昭和35年～昭和45年以外は、総数に「年齢不詳」を含む。

《図表2-1-1②》宮城県の年齢3区分別人口の推移（昭和25年～令和2年）



令和2（2020）年時点で宮城県の15歳未満人口割合は11.7%（全国11.9%）、15歳から64歳までは60.2%（全国59.5%）、65歳以上は28.1%（全国28.6%）です。全国の人口構成と比較すると、生産年齢人口割合は大きく、老年人口割合は小さくなっていますが、宮城県の高齢化は今後全国よりも進むと推計されています。

《図表2-1-2》年齢3区分別人口割合の推移（全国、県）



出典：昭和25年～令和2年は国勢調査（※令和2年は「不詳補完値」を算出し3区分別人口を割り出しているため、最終確定値の値と異なります）
 令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」（平成30年3月推計）による。ただし、昭和35年～昭和45年以外は、総数に「年齢不詳」を含む。

第2節 健康寿命

健康寿命は延伸

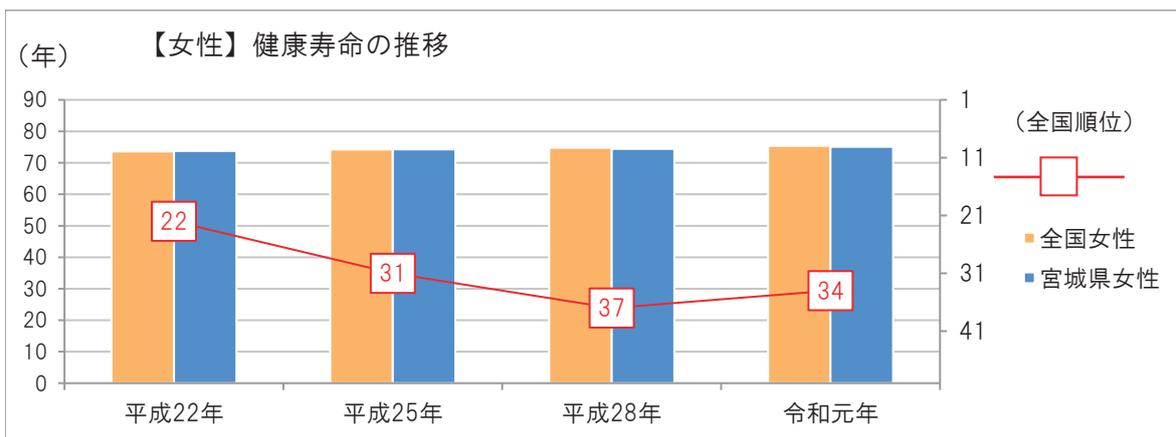
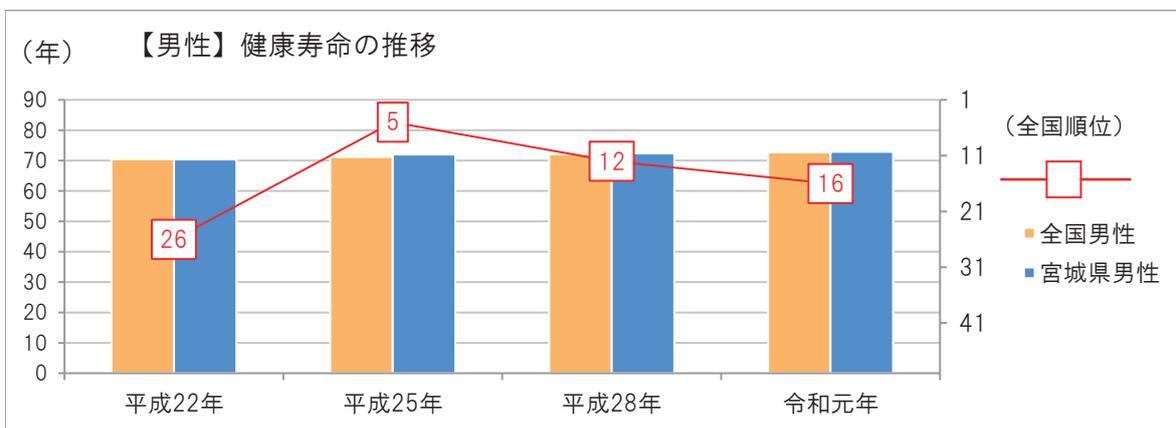
健康寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことです。

本県の健康寿命は、男女とも緩やかな上昇傾向が継続しており、令和元（2019）年は県男性72.90年（全国72.68年）で全国16位、県女性75.10年（全国75.38年）で全国34位となっています。平成22（2010）年と比較すると、男性は2.50年、女性は1.32年延びています。

《図表2-2-1》健康寿命の推移：男女別（全国、県）

	平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
全国男性	70.42	71.19	72.14	72.68
宮城県男性	70.40	71.99	72.37	72.90
男性順位	26	5	12	16

	平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
全国女性	73.62	74.21	74.79	75.38
宮城県女性	73.78	74.25	74.41	75.10
女性順位	22	31	37	34



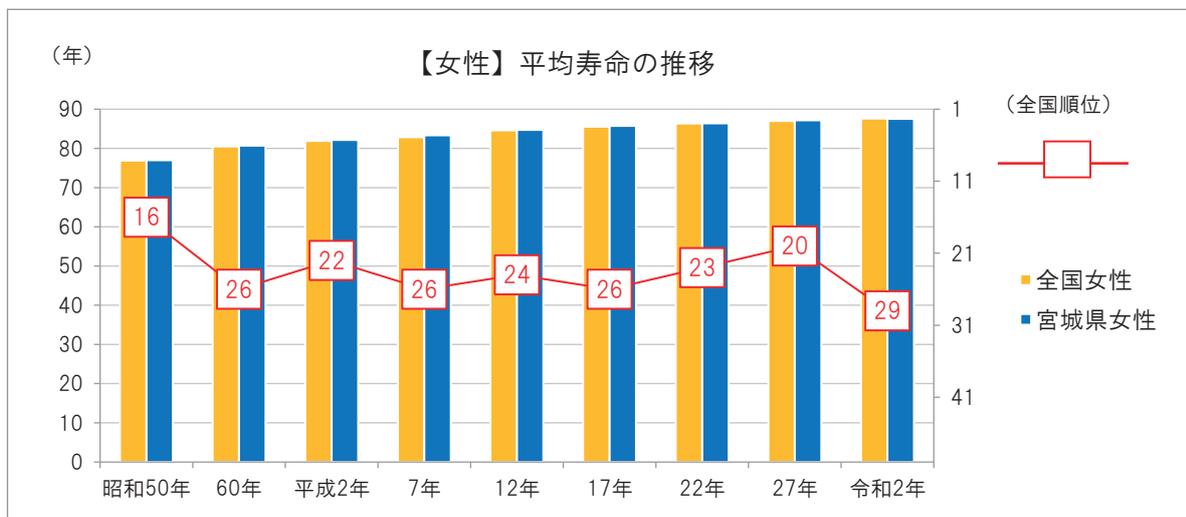
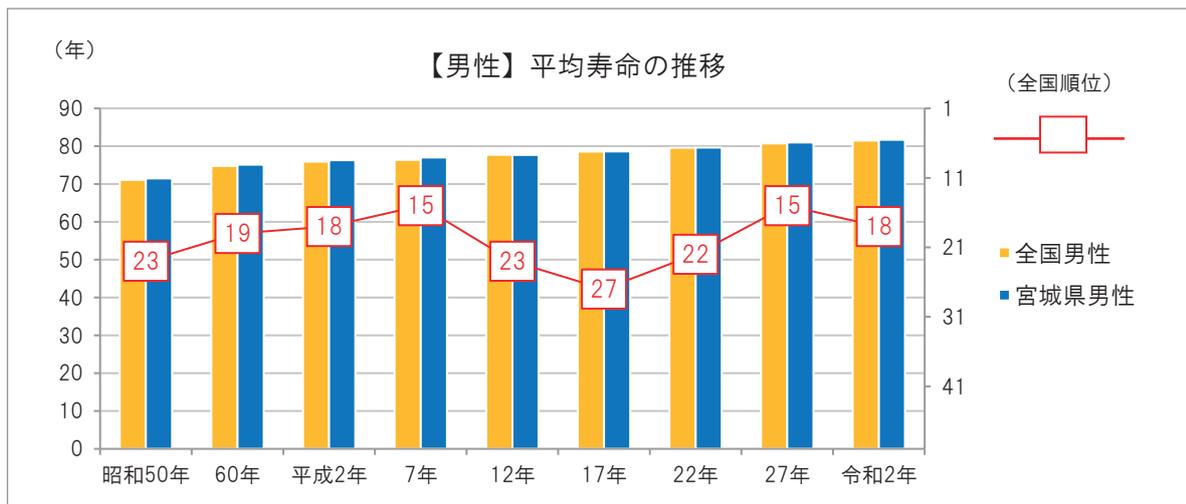
平均寿命も延伸

全国、宮城県ともに平均寿命は延伸を続けています。高齢化が進行している宮城県においては、個人の生活の質の低下を防ぐためのみならず、社会保障制度の持続可能性を高めるためにも、健康寿命を延伸させ、平均寿命との差を縮めていくことが重要です。

《図表2-2-3》平均寿命の推移：男女別（全国、県）

	昭和50年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	令和2年
全国男性	71.13	74.78	75.92	76.38	77.72	78.56	79.59	80.75	81.49
宮城県男性	71.50	75.11	76.29	77.00	77.71	78.60	79.65	80.99	81.70
男性順位	23	19	18	15	23	27	22	15	18

	昭和50年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	令和2年
全国女性	76.89	80.48	81.90	82.85	84.60	85.52	86.35	86.99	87.60
宮城県女性	77.00	80.69	82.15	83.32	84.74	85.75	86.39	87.16	87.51
女性順位	16	26	22	26	24	26	23	20	29



出典 完全生命表、都道府県別生命表の概況（厚生労働省）

第3節 主な危険因子の状況

メタボの割合が高い

循環器病との関連があるとされるメタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合は、32.2%（令和3（2021）年度）で全国ワースト2位となっています。

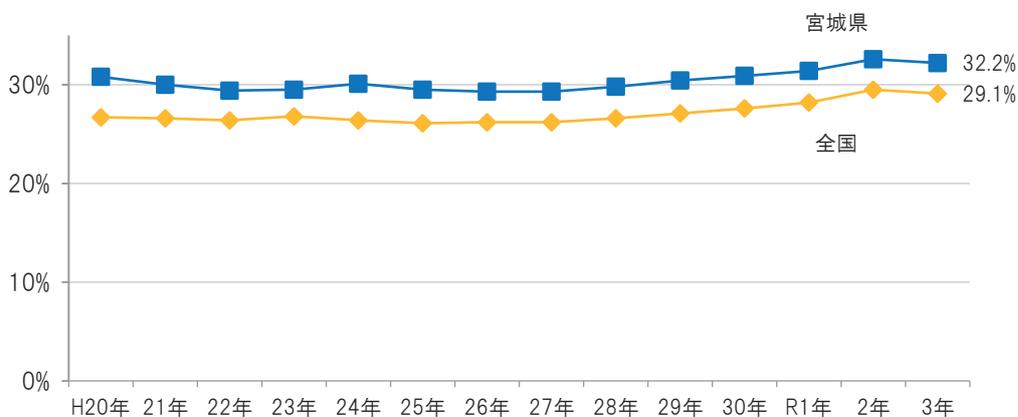
過去14年間、全国値を上回る状況が続いています。



《図表2-3-1》メタボリックシンドローム該当者及び予備群割合の推移（全国，県）

	メタボ該当者			メタボ予備群			該当者+予備群		
	全国	宮城県	順位	全国	宮城県	順位	全国	宮城県	順位
平成20年度	14.4%	17.7%	1	12.4%	13.0%	9	26.7%	30.8%	2
21年度	14.3%	17.5%	1	12.3%	12.5%	17	26.6%	30.0%	2
22年度	14.4%	17.5%	2	12.0%	11.9%	26	26.4%	29.4%	2
23年度	14.6%	17.5%	2	12.1%	12.1%	24	26.8%	29.5%	2
24年度	14.5%	17.7%	1	11.9%	12.4%	7	26.4%	30.1%	2
25年度	14.3%	16.9%	2	11.8%	12.6%	4	26.1%	29.5%	2
26年度	14.4%	17.0%	3	11.8%	12.2%	11	26.2%	29.3%	3
27年度	14.4%	17.2%	2	11.7%	12.1%	13	26.2%	29.3%	3
28年度	14.8%	17.6%	2	11.8%	12.2%	13	26.6%	29.8%	3
29年度	15.1%	18.1%	2	12.0%	12.3%	13	27.1%	30.4%	2
30年度	15.5%	18.5%	2	12.2%	12.4%	14	27.6%	30.9%	2
令和元年度	15.9%	18.7%	3	12.3%	12.8%	9	28.2%	31.4%	2
2年度	16.8%	19.8%	2	12.7%	12.8%	19	29.5%	32.6%	2
3年度	16.6%	19.7%	2	12.5%	12.5%	19	29.1%	32.2%	2

メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合の推移



出典 特定健診・特定保健指導に関するデータ（厚生労働省）

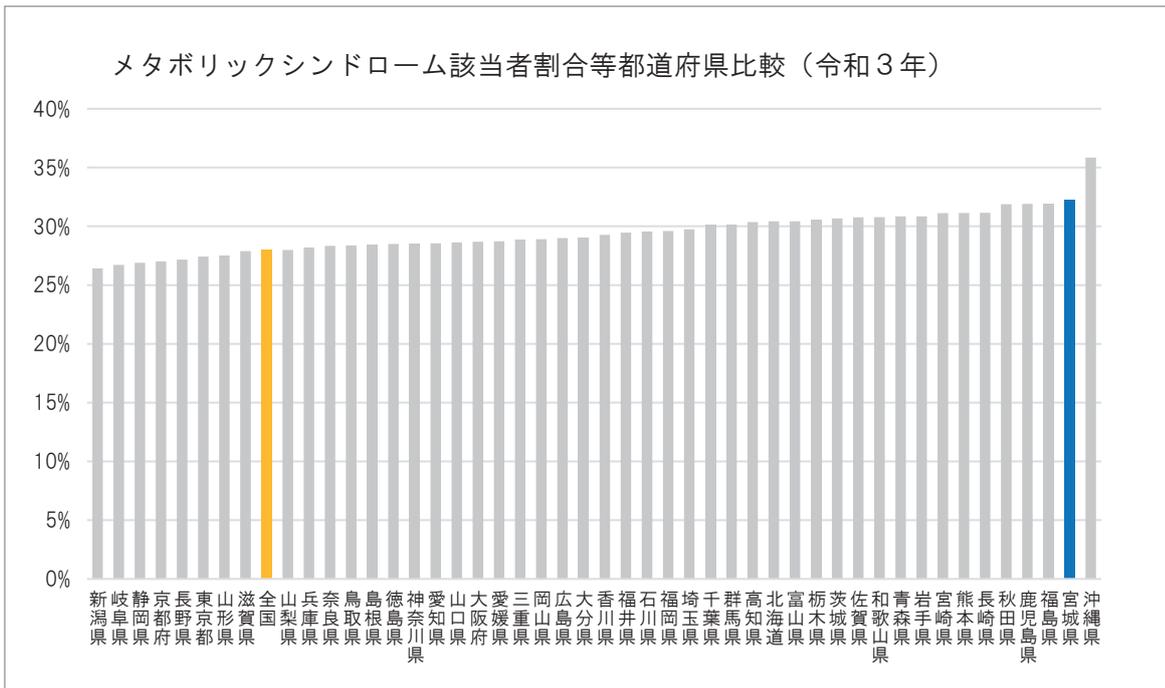
注）順位は、都道府県順位で高率順

注）全国値は、単純に全国の平均値を計算したもので、年齢調整などの補正は行っていません。各都道府県の受診率、人口、投薬の有無などに影響されるので、参考データです。

《図表2-3-2》メタボリックシンドローム該当者及び予備群の人数（令和3年）

	特定健康診査受診者数（人）	メタボリックシンドローム該当者		メタボリックシンドローム予備群		該当者＋予備群割合（％）
		人数（人）	割合（％）	人数（人）	割合（％）	
宮城県	613,904	121,212	19.7%	76,641	12.5%	32.2%
全国	30,240,302	5,017,557	16.6%	3,768,848	12.5%	29.1%

《図表2-3-3》都道府県別メタボリックシンドローム該当者及び予備群割合（令和3年）

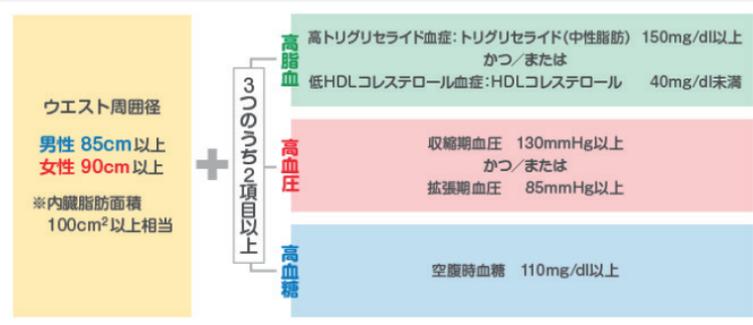


出典 特定健診・特定保健指導に関するデータ（厚生労働省）

メタボリックシンドロームの診断基準

ウエスト周囲径（おへその高さの腹囲）が男性 85cm・女性 90cm 以上で、かつ血圧・血糖・脂質の3つのうち2つ以上が基準値から外れると、「メタボリックシンドローム」と診断されます。

血圧・血糖・脂質の3つのうち1つが基準値から外れると「予備群」となります。



図の出典 厚生労働省 生活習慣病予防のための健康情報サイト

高血圧の県民の割合が高い

循環器病の主な危険因子としては、高血圧、脂質異常症、喫煙、糖尿病の4つが挙げられます。

これらの本県における状況は、次のとおりです。



■ 高血圧

高血圧により動脈硬化や心臓への圧力が進行すると、様々な循環器病を引き起こすことがあります。

本県の高血圧性疾患の受療率（人口 10 万対・令和2（2020）年）は423で全国値を下回っていますが、令和元（2019）年度の特健診における収縮期血圧の有所見率を見ると、男性44.0%、女性34.4%で、男女ともに全国値を上回っています。

また、高血圧は本県の健康課題であるメタボリックシンドロームのリスク因子として、長く課題解決を困難にしている要因であると考えられます。

この背景として、肥満者の割合が多い、食塩摂取量が多い、野菜・果物摂取量が少ない、歩数が少ない、喫煙等の生活習慣が関連していると考えられます。

血圧管理が
重要です



■ 脂質異常症

脂質異常症は、虚血性心疾患の危険因子とされています。

令和元（2019）年度の特健診におけるLDLコレステロール（いわゆる悪玉コレステロール）の有所見率を見ると、男性51.9%、女性52.6%で男女ともに全国値より低くなっていますが、中性脂肪の有所見率では、男性29.0%、女性11.9%で、男女ともに全国値より上回っています。

脂質異常症

血液中の脂質の値が基準値から外れた状態を、脂質異常症といいます。LDLコレステロールや中性脂肪等の血中濃度の異常があります。これらはいずれも、動脈硬化の促進と関連します。

■ 喫煙

たばこを吸うと、動脈硬化や血栓の形成が進むことから、虚血性心疾患を引き起こす原因となります。また、脳卒中のリスクを高めます。

喫煙習慣者の割合は男女ともに全国平均より大きく、男性33.3%（全国28.8%）（令和元（2019）年）、女性9.5%（全国8.8%）（令和元（2019）年）で、男性は全国ワースト6、女性は全国ワースト7位になっています。

直近の令和4（2022）年度の県民健康・栄養調査では、喫煙習慣者の割合は、男性31.1%、女性7.2%となっています。（詳細データは、第4章第1節参照）

■ 糖尿病

糖尿病による高血糖の状態が続くと、血管が傷つき循環器病が起こる可能性が高まります。

本県の糖尿病の受療率（人口10万対・令和2（2020）年）は、133で全国値を下回っていますが令和元（2019）年度の特健診におけるHbA1cの有所見率を見ると、男女ともに59.5%で全国値を大きく上回っています。

この要因として、朝食を食べない、夕食後の間食が多い、睡眠時間が短いなどの生活リズムに係る生活習慣の変化が関連していると考えられます。

HbA1c

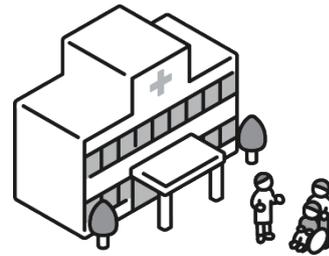
ヘモグロビンエーワンシー又はエイチビーエーワンシー

過去1～2か月の血糖値の状態を反映した指標をいいます。

■ 危険因子となる各データ

《図表2-3-4》主な危険因子の受療率（人口10万対）（令和2年）

項目	宮城県	全国値
	外来	外来
高血圧性疾患	423	471
脂質異常症	98	122
糖尿病	133	170



出典 令和2年患者調査（厚生労働省）確定数 都道府県編 閲覧（報告書非掲載表）
注）受療率に関しては、第2章第8節を参照

《図表2-3-5》特定健診結果における検査項目ごとの有所見率（平成30年度と令和元年度）

項目 〔有所見域〕	男性			女性		
	平成30年度	令和元年度		平成30年度	令和元年度	
	宮城県 （%）	宮城県 （%）	全国値 （%）	宮城県 （%）	宮城県 （%）	全国値 （%）
BMI 〔25.0以上〕	37.9	38.5	35.8	23.8	24.2	21.0
収縮期血圧 〔130mmHg以上〕	43.4	44.0	39.2	33.7	34.4	29.9
中性脂肪 〔150mg/dl以上〕	29.3	29.0	27.4	12.2	11.9	11.6
LDL 〔120mg/dl以上〕	51.7	51.9	54.9	52.5	52.6	54.5
HbA1c 〔5.6%以上〕	60.6	59.5	38.2	61.1	59.5	38.6

出典 NDB オープンデータ（厚生労働省）

注）全国値は、単純に全国の平均値を計算したもので、年齢調整などの補正は行っていません。
各都道府県の受診率、人口、投薬の有無などに影響されるので、参考データです。

第4節 死因順位

脳血管疾患による死因割合が全国よりも高い

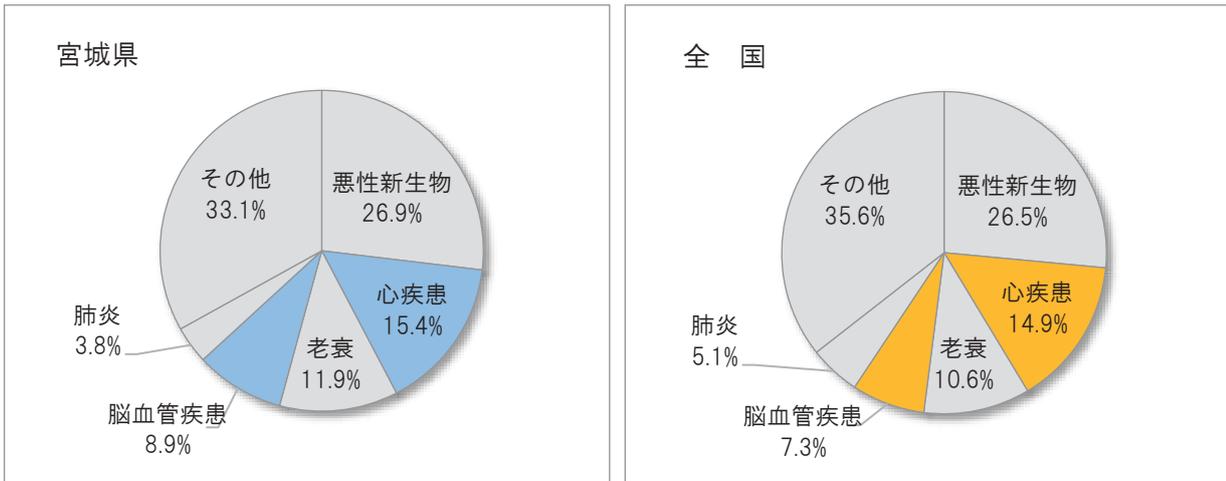
宮城県の死因順位（令和3（2021）年）は、全国と同様に第1位悪性新生物、第2位心疾患、第3位老衰、第4位脳血管疾患となっています。宮城県の心疾患が死亡総数に占める割合は15.4%（全国14.9%）、脳血管疾患は8.9%（全国7.3%）であり、全国平均よりも大きくなっています。

《図表2-4-1》死因順位表（全国、県）（令和3年）

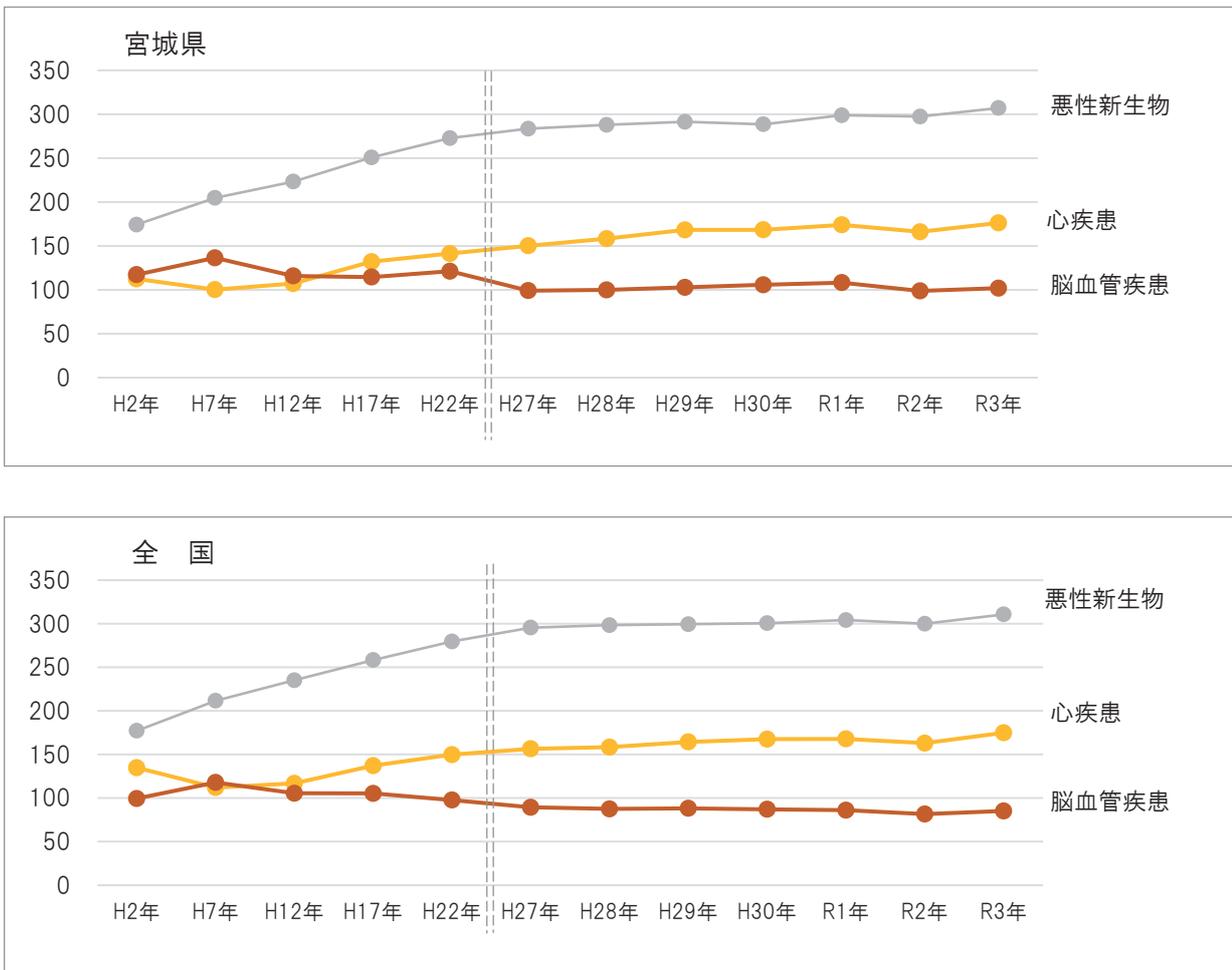
	死因順位	令和3年			令和2年		令和3年/令和2年		
		死因	死亡数(人)	死亡率(人口10万人対)	死亡総数に占める割合(%)	死亡順位	死亡数(人)	増減数	対前年比
宮城県		全死亡総数	25,897	1,141.3	100.0	—	24,632	1,265	105.1
	1位	悪性新生物	6,969	307.1	26.9	1位	6,845	124	101.8
	2位	心疾患	3,999	176.2	15.4	2位	3,824	175	104.6
	3位	老衰	3,069	135.3	11.9	3位	2,637	432	116.4
	4位	脳血管疾患	2,312	101.9	8.9	4位	2,275	37	101.6
	5位	肺炎	978	43.1	3.8	5位	1,057	△79	92.5
	6位	誤嚥性肺炎	763	33.6	2.9	6位	695	68	109.8
	7位	不慮の事故	694	30.6	2.7	7位	659	35	105.3
	8位	アルツハイマー病	579	25.5	2.2	8位	534	45	108.4
	9位	腎不全	502	22.1	1.9	9位	445	57	112.8
	10位	自殺	392	17.3	1.5	11位	411	△19	95.4
全国		全死亡総数	1,439,856	1,172.7	100.0	—	1,372,755	67,101	104.9
	1位	悪性新生物	381,505	310.7	26.5	1位	378,385	3,120	100.8
	2位	心疾患	214,710	174.9	14.9	2位	205,596	9,114	104.4
	3位	老衰	152,027	123.8	10.6	3位	132,440	19,587	114.8
	4位	脳血管疾患	104,595	85.2	7.3	4位	102,978	1,617	101.6
	5位	肺炎	73,194	59.6	5.1	5位	78,450	△5,256	93.3
	6位	誤嚥性肺炎	49,488	40.3	3.4	6位	42,746	6,742	115.8
	7位	不慮の事故	38,355	31.2	2.7	7位	38,133	222	100.6
	8位	腎不全	28,688	23.4	2.0	8位	26,948	1,740	106.5
	9位	アルツハイマー病	22,960	18.7	1.6	9位	20,852	2,108	110.1
	10位	血管性及び詳細不明の認知症	22,343	18.2	1.6	10位	20,815	1,528	107.3

出典 死亡数：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」保管統計表都道府県編死亡・死因第2表
死亡率：死亡数及び日本人人口（厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態調査」上巻付録第4表-1）から算出

《図表2-4-2》死亡総数に占める割合（全国、県）（令和3年）



《図表2-4-3》主な死因の粗死亡率（人口10万対）の推移（県、全国）（平成2年～令和3年）



出典 死亡率：死亡数及び日本人人口（厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」上巻付録第4表-1）から算出。令和2年人口は国勢調査人口等基本集計から算出
 死亡数：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」保管統計表都道府県編死亡・死因第2表
 注）平成27年までは5年刻みで表示

第5節 年齢調整死亡率

1 脳血管疾患

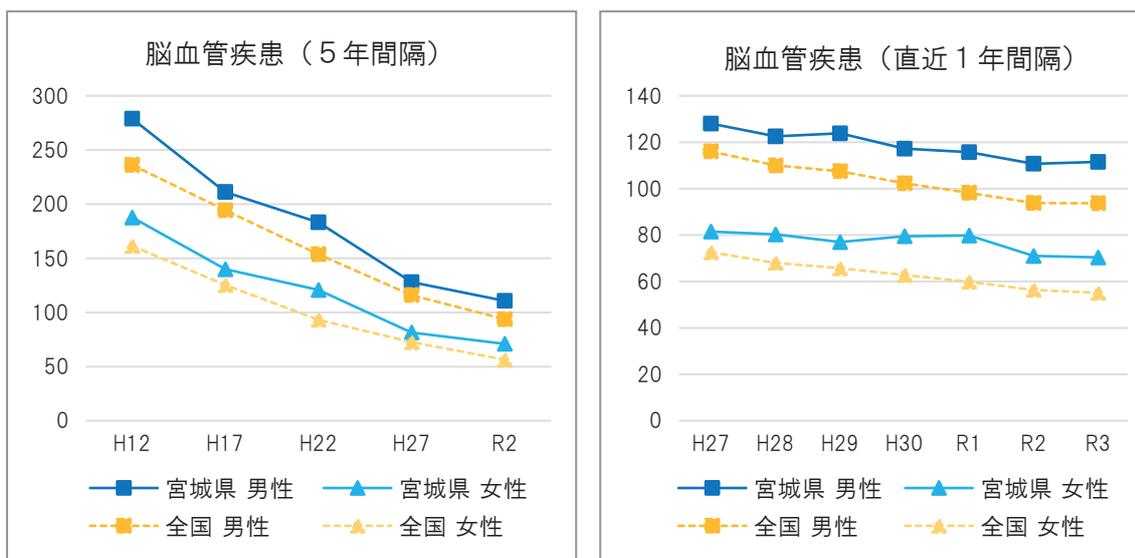
脳血管疾患の年齢調整死亡率が全国に比べ高い状況が続いている

宮城県の脳血管疾患の年齢調整死亡率（人口10万対）は、平成12（2000）年から平成27（2015）年頃までは順調に低下していましたが、近年は緩やかな減少傾向又は横ばいになっています。直近値（令和3（2021）年）を見ると男性111.5、女性70.4となっており、全国値（男性93.7、女性55.1）と比べ依然として上回っている状況が続いています。

《図表2-5-1》年齢調整死亡率の推移（人口10万対）県・全国

脳血管疾患		平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年
宮城県	男	128.0	122.5	123.8	117.2	115.7	110.7	111.5
	女	81.5	80.3	77.0	79.5	79.8	71.0	70.4
全国	男	116.0	110.0	107.5	102.3	98.2	93.8	93.7
	女	72.6	68.0	65.7	62.8	59.9	56.4	55.1

《図表2-5-2》年齢調整死亡率の推移（人口10万対）県・全国
（平成12年から令和2年の5年間隔）と（平成27年から令和3年）



出典 データからみたまやぎの健康（令和4年度版）

● 脳血管疾患の内訳

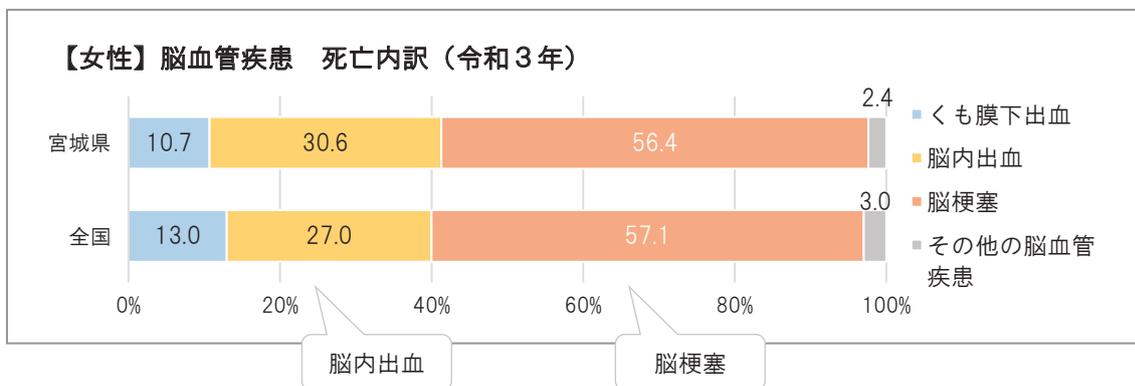
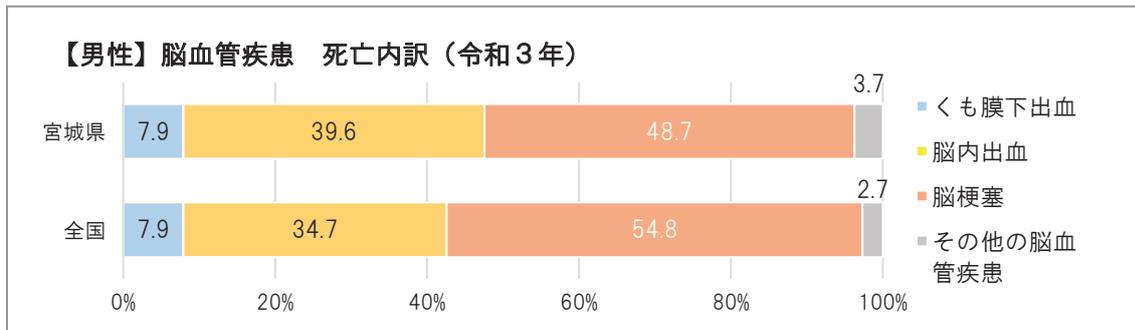
宮城県の脳血管疾患死亡者の内訳を見ると、男女ともに「脳梗塞」が最も多く、次いで「脳内出血」「くも膜下出血」となっています。この順位は全国でも同様ですが、宮城県は全国と比較して「脳内出血」の割合が多くなっています。

《図表 2-5-3》脳血管疾患の死亡者数・疾病別年次推移（県・全国）（単位：人）

宮城県	令和元年		令和2年		令和3年	
	男	女	男	女	男	女
脳血管疾患総数	1,152	1,201	1,090	1,185	1,125	1,187
くも膜下出血	86	138	79	166	89	127
脳内出血	476	383	438	348	446	363
脳梗塞	562	657	534	636	548	669
その他の脳血管疾患	28	23	39	35	42	28

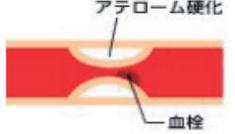
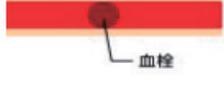
全国	令和元年		令和2年		令和3年	
	男	女	男	女	男	女
脳血管疾患総数	53,198	56,698	50,390	52,588	51,594	53,001
くも膜下出血	4,536	7,774	4,114	7,302	4,080	6,867
脳内出血	17,885	14,774	17,790	14,207	17,884	14,324
脳梗塞	29,499	32,631	27,218	29,646	28,251	30,238
その他の脳血管疾患	1,278	1,519	1,268	1,433	1,379	1,572

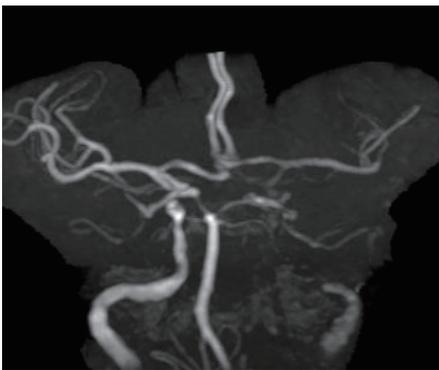
《図表 2-5-4》脳血管疾患による死亡内訳割合（県・全国）



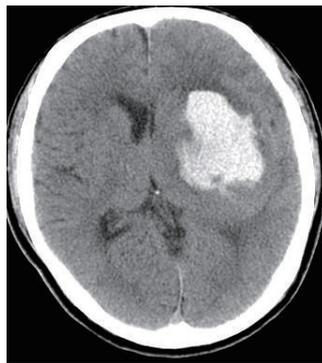
出典 データからみたまやぎの健康（令和4年度版）
厚生労働省「人口動態統計」保管統計表都道府県編死亡・死因第2表

● 脳卒中について

脳卒中	脳血管が詰まる	アテローム血栓性梗塞 	アテローム硬化（動脈硬化）によって、血管の内腔が狭くなり、そこに血栓ができて脳血管が詰まるもの。 症状は、片まひ、感覚障害、言語障害、意識障害など。
		ラクナ梗塞 	脳の細い血管が、主に高血圧によって変化し、詰まるもの。 症状としては、意識喪失はありませんが、手足のしびれ、ろれつが回らないことなど。
		心原性脳梗塞栓症 	心臓などにできた血栓が、脳血管まで流れ、脳血管が詰まるもの。 症状は、意識喪失。 症状は急にあらわれ、死に至る危険性は高い。
	脳血管が破れる	脳出血 	脳の細い血管が破れて出血するもの。 症状は、昏睡、半身麻痺など。
		くも膜下出血 	脳動脈瘤が破れて、くも膜下腔（脳の表面）に出血するもの。 症状は、頭痛、悪心、嘔吐、意識混濁など。



脳梗塞（内頸動脈閉塞）の画像
（左側（画面上右側）が梗塞）



脳内出血の画像
（白い部分）



脳動脈瘤の画像

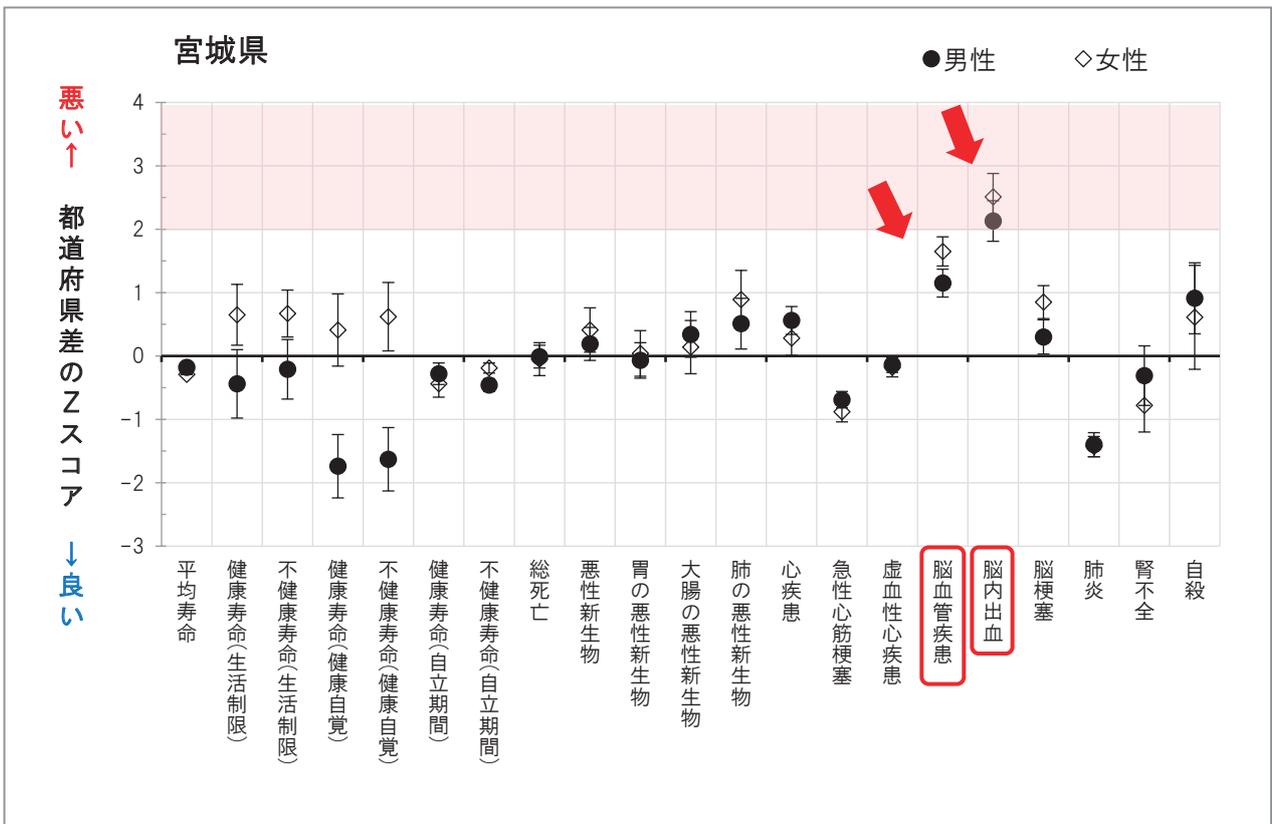
（東北大学病院提供）

● 参考データ

47都道府県間で比較しても脳血管疾患の死亡率が高い

国立保健医療科学院が公表している「各種統計資料等からみた都道府県の健康状態の特徴要約」によれば、宮城県は平均寿命、健康寿命については、ほぼ平均的な位置にいますが、脳血管疾患（特に脳内出血）の年齢調整死亡率は全国的にみても高い（悪い）位置にあります。

令和元(2019)年 平均寿命・健康寿命・死因別年齢調整死亡率の特徴要約（県）



【表の見方】

Zスコアは 47 都道府県間での偏差値のような指標であり、その解釈は、おおむね以下のとおりです。

- ±0.5 全国都道府県でほぼ平均的・・・偏差値50相当
- ±1.0 上(下)位6分の1・・・偏差値60相当
- ±2.0 ほとんどトップ・・・偏差値70相当
- ±3.0 突出している・・・偏差値80相当

出典：地方自治体における生活習慣病関連の健康課題把握のための参考データ・ツール集
 各種統計資料等からみた都道府県の健康状態の特徴要約
 「平均寿命、健康寿命、死因別年齢調整死亡率（令和元年）」
 国立保健医療科学院生涯健康研究部 横山先生からの提供データを一部改変

健康寿命・不健康寿命は「健康日本21（第二次）の総合的評価と次期健康づくり運動に向けた研究」都道府県別健康寿命（2010～2019年）（令和3年度分担研究報告書の付表より。平均寿命は健康寿命＋不健康寿命として計算し標準誤差は示していない。年齢調整死亡率は人口動態統計より間接法により算出。肺は気管、気管支および肺）

● 参考データ

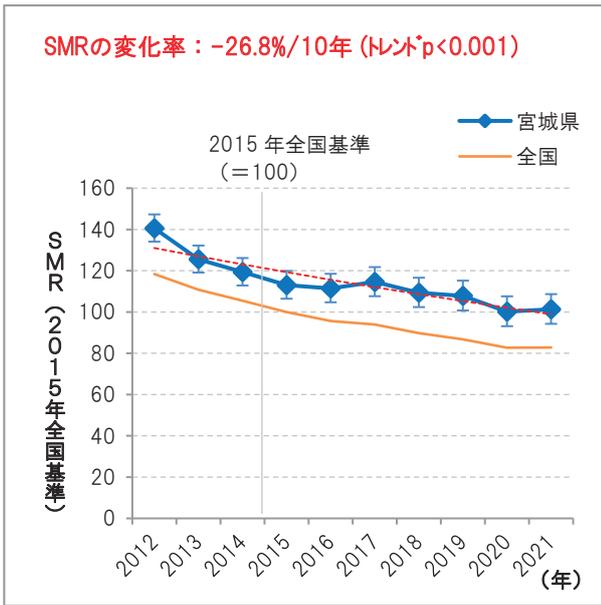
脳血管疾患による死亡割合は近年増加傾向

脳血管疾患による標準化死亡比は全国的に減少傾向にあり、宮城県も同様に減少していますが、もともと全国値より高かった値は、その差が開いたままになっています。

また、その差を経年でみると全国値との差が縮まるどころか、その差がやや大きくなっています。

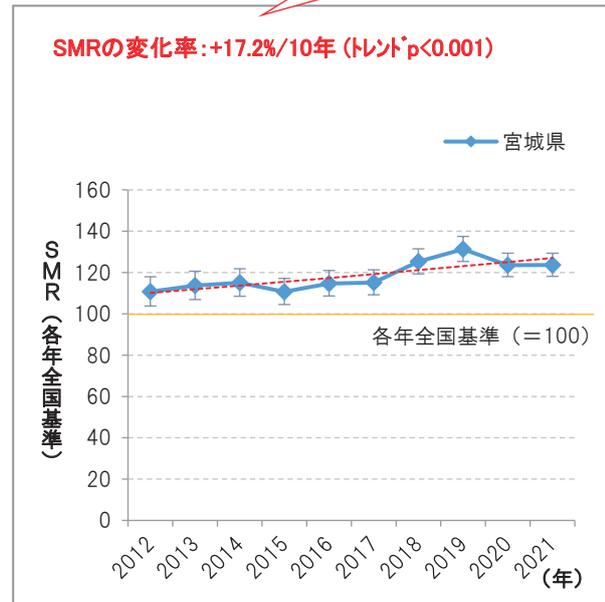
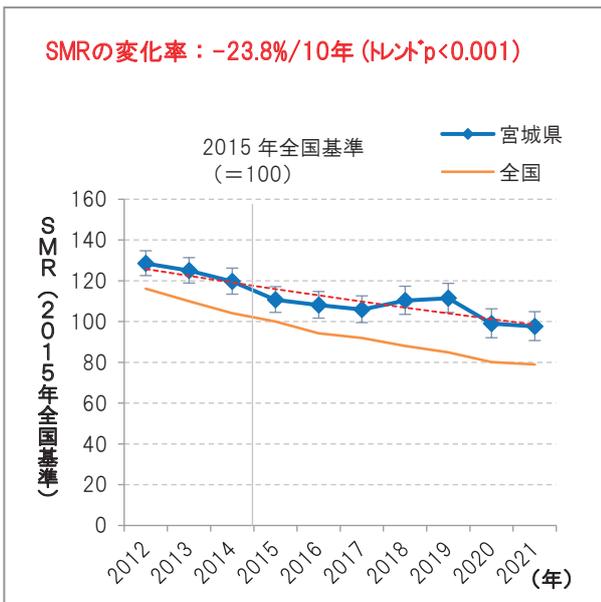
脳血管疾患の標準化死亡比（SMR）の経年変化（県）男性

変化率が+に



脳血管疾患の標準化死亡比（SMR）の経年変化（県）女性

変化率が+に



出典：地方自治体における生活習慣病関連の健康課題把握のための参考データ・ツール集
 各種統計資料等からみた都道府県の健康状態の特徴要約
 「平均寿命、健康寿命、死因別年齢調整死亡率（令和元年）」
 国立保健医療科学院生涯健康研究部 横山先生からの提供データを一部改変

2 心血管疾患

心血管疾患の年齢調整死亡率はほぼ全国と同じ

宮城県の心疾患の年齢調整死亡率（人口 10 万対）は、男性、女性ともに緩やかに低下していますが、近年は横ばいになっています。全国値と大きな差は見られません。

なお、心疾患のうち虚血性心疾患に限定すれば、全国値より低い値となっています。

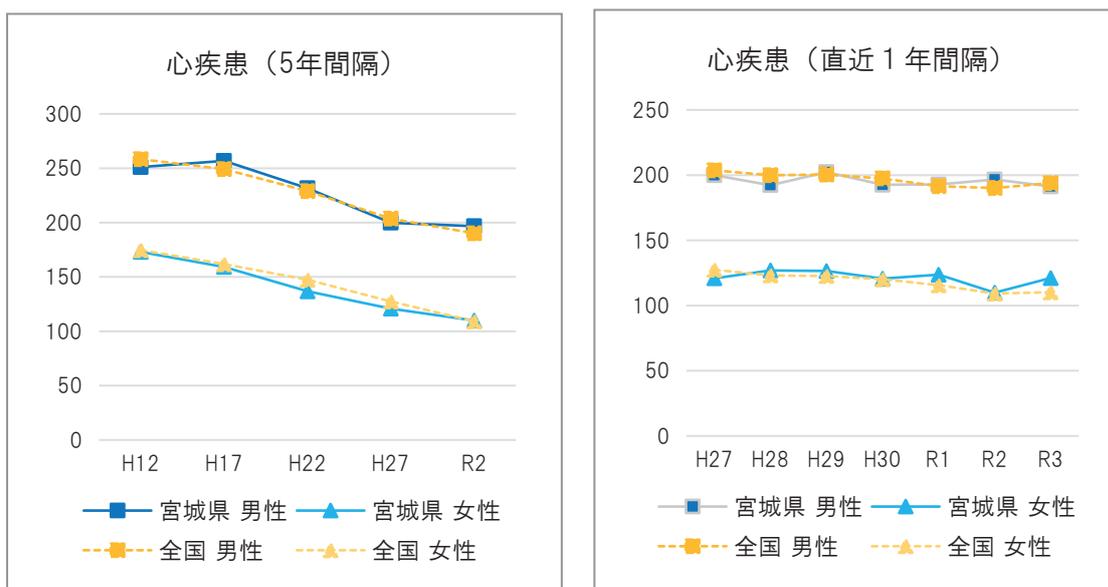
《図表 2-5-5》年齢調整死亡率の推移（人口 10 万対）県・全国

		平成 27 年	28 年	29 年	30 年	令和 元年	2 年	3 年	
宮城県	男	199.9	192.3	202.3	192.6	192.8	196.7	191.3	
	女	120.9	126.9	126.5	120.6	123.7	109.9	121.1	
	(うち)※ 虚血性心疾患	男	68.6	66.7	66.0	67.0	61.7	58.6	55.6
	女	34.6	33.2	29.6	28.2	27.8	22.1	23.3	
全国	男	203.6	199.9	200.4	197.4	191.5	190.1	193.8	
	女	127.4	123.1	122.6	120.1	115.6	109.2	110.2	
	(うち)※ 虚血性心疾患	男	84.5	80.8	78.6	77.3	72.9	73.0	72.8
	女	38.8	37.0	35.0	33.9	31.5	30.2	29.6	

※ 「虚血性心疾患」＝「急性心筋梗塞」＋「その他の虚血性心疾患」

《図表 2-5-6》年齢調整死亡率の推移（人口 10 万対）県・全国

（平成 12 年から令和 2 年の 5 年間隔）と（平成 27 年から令和 3 年）



出典 データからみたまやぎの健康（令和 4 年度版）。

● 心疾患の内訳

宮城県の心疾患による死亡者の内訳を見ると、男性は「心不全」、「心筋梗塞などの虚血性心疾患※」、「不整脈及び伝導障害」の順になっており、女性は「心不全」、「不整脈及び伝導障害」、「心筋梗塞などの虚血性心疾患※」の順となっています。

一方、全国の内訳を見ると、男性は「心筋梗塞などの虚血性心疾患※」、「心不全」、「不整脈及び伝導障害」の順になっており、女性は「心不全」、「心筋梗塞などの虚血性心疾患※」、「不整脈及び伝導障害」となっています。

※ 「心筋梗塞などの虚血性心疾患」＝「急性心筋梗塞」＋「その他の虚血性心疾患」

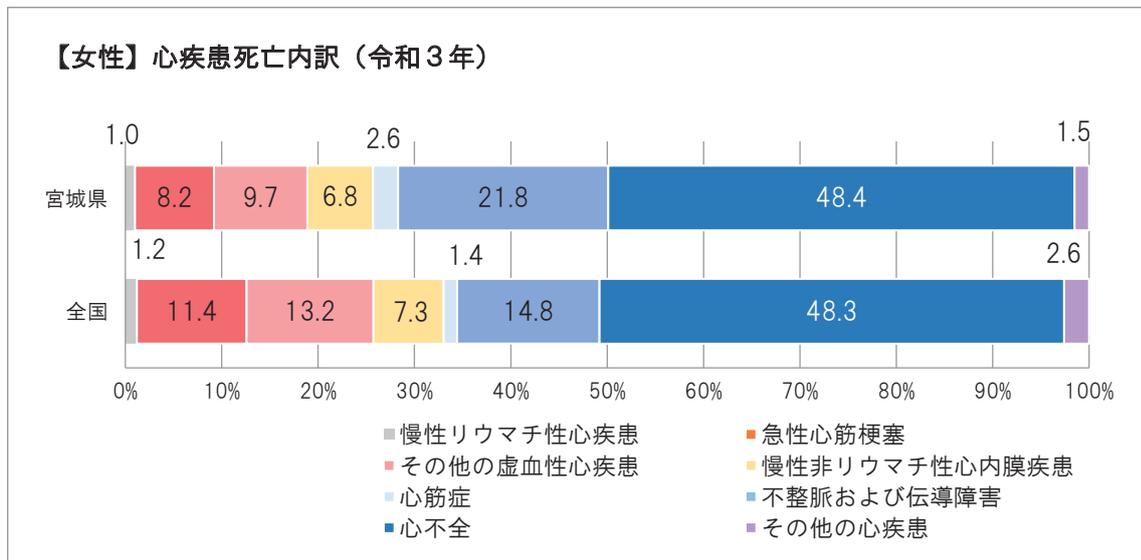
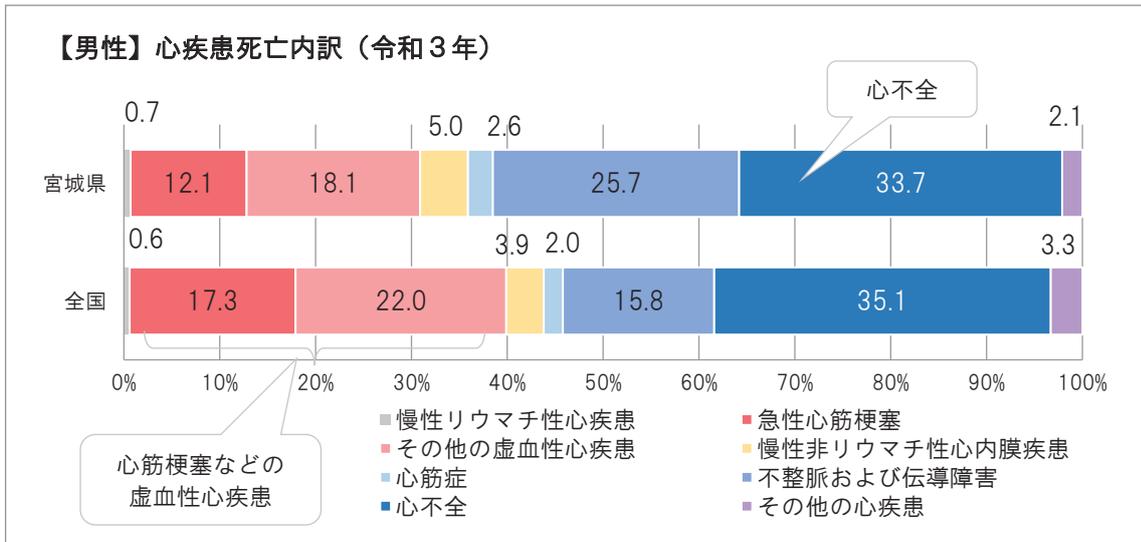
《図表 2-5-7》心疾患の死亡者数・疾病別年次推移（県・全国）（単位：人）

宮城県		令和元年		令和2年		令和3年	
		男	女	男	女	男	女
心疾患総数		1,876	2,097	1,898	2,101	1,898	2,101
※	慢性リウマチ性心疾患	11	26	13	21	13	21
	急性心筋梗塞	262	184	230	173	230	173
	その他の虚血性心疾患	358	264	344	204	344	204
	慢性非リウマチ性心内膜疾患	60	138	94	142	94	142
	心筋症	54	29	50	55	50	55
	不整脈及び伝導障害	478	452	487	458	487	458
	心不全	622	969	640	1016	640	1016
	その他の心疾患	31	35	40	32	40	32

全国		令和元年		令和2年		令和3年	
		男	女	男	女	男	女
心疾患総数		98,210	109,504	103,700	111,010	99,304	106,292
※	慢性リウマチ性心疾患	666	1,379	656	1,337	656	1,337
	急性心筋梗塞	18,146	13,381	17,926	12,652	17,926	12,652
	その他の虚血性心疾患	21,441	14,358	22,818	14,605	22,818	14,605
	慢性非リウマチ性心内膜疾患	3,761	8,022	4,062	8,056	4,062	8,056
	心筋症	2,174	1,624	2,058	1,542	2,058	1,542
	不整脈及び伝導障害	15,197	16,064	16,395	16,409	16,395	16,409
	心不全	33,678	51,887	36,374	53,576	36,374	53,576
	その他の心疾患	3,147	2,789	3,411	2,833	3,411	2,833

出典 データからみたまやぎの健康（令和4年度版）
厚生労働省「人口動態統計」保管統計表都道府県編死亡・死因第2表

《図表2-5-8》心疾患による死亡内訳割合（県・全国）



● 急性心筋梗塞、心不全について

急性心筋梗塞	「冠動脈の閉塞」		<p>心臓を栄養する血管（冠動脈）に、血栓などが急に形成され閉塞した結果、心筋に血液が届かなくなり、心筋が壊死に陥る状態。</p> <p>症状は、突如の胸痛が15分以上続く、意識が遠のくなど。</p>
心不全	「ポンプ機能の低下」		<p>様々な原因による心筋障害により心臓のポンプ機能が低下し、肺、体静脈系又は両系のうっ血や、組織の低灌流を来し日常生活に障害を生じた状態</p> <p>症状は、労作時呼吸困難、息切れ、四肢浮腫、全身倦怠感、尿量低下など様々</p>

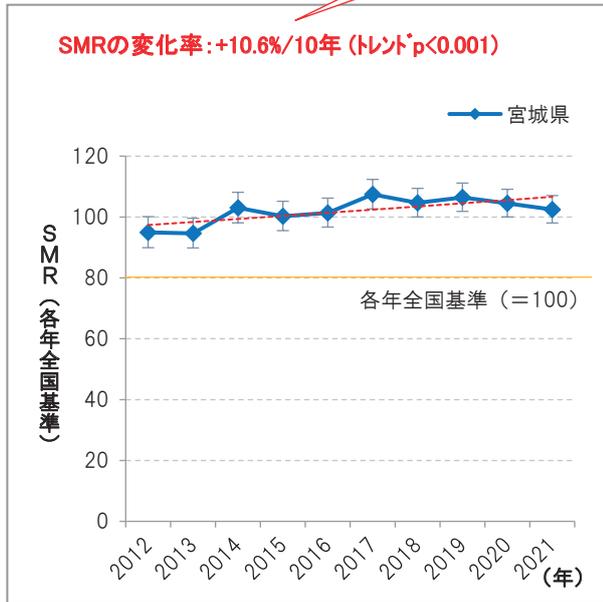
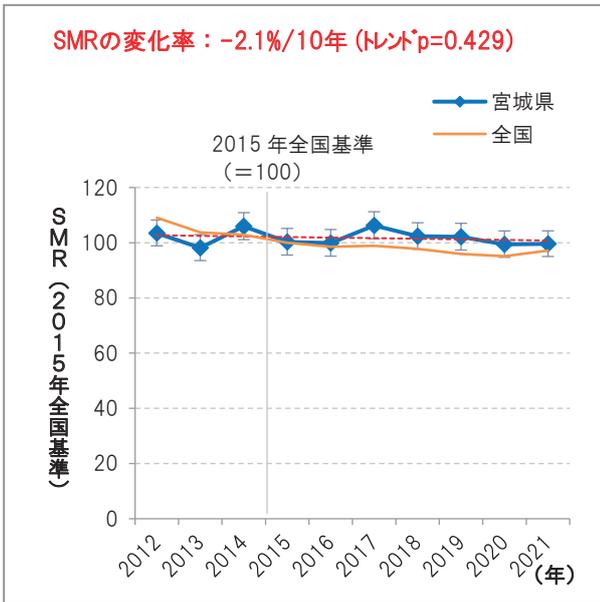
● 参考データ

心疾患による死亡割合は近年増加傾向

国立保健医療科学院が公表している「各種統計資料等からみた都道府県の健康状態の特徴要約」によれば、心疾患による標準化死亡比は全国的に横ばい傾向にあり、宮城県も同様です。全国値との差もほとんどありませんが、経年でみると全国値との差がやや広がっています。

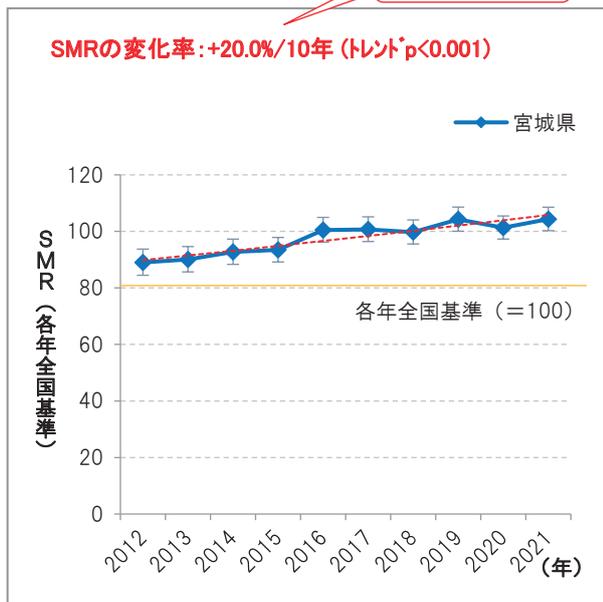
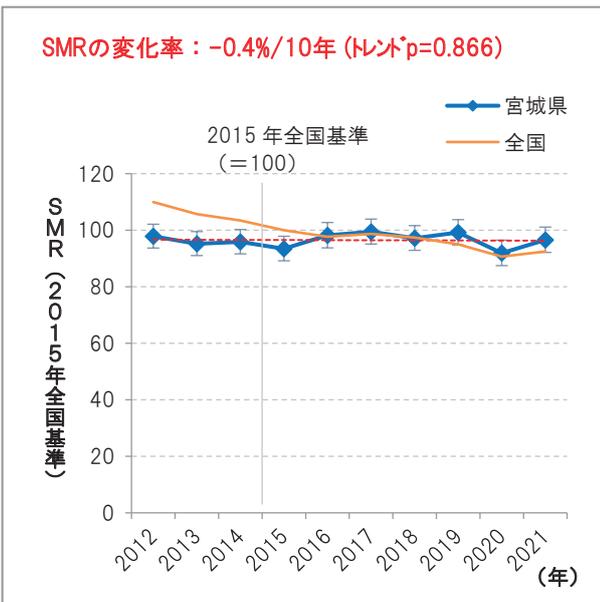
心疾患（高血圧性を除く）の標準化死亡比（SMR）の経年変化（県）男性

変化率が+に



心疾患（高血圧性を除く）の標準化死亡比（SMR）の経年変化（県）女性

変化率が+に



出典：地方自治体における生活習慣病関連の健康課題把握のための参考データ・ツール集
 各種統計資料等からみた都道府県の健康状態の特徴要約
 「平均寿命、健康寿命、死因別年齢調整死亡率（令和元年）」
 国立保健医療科学院生涯健康研究部 横山先生からの提供データを一部改変

第6節 介護の状況

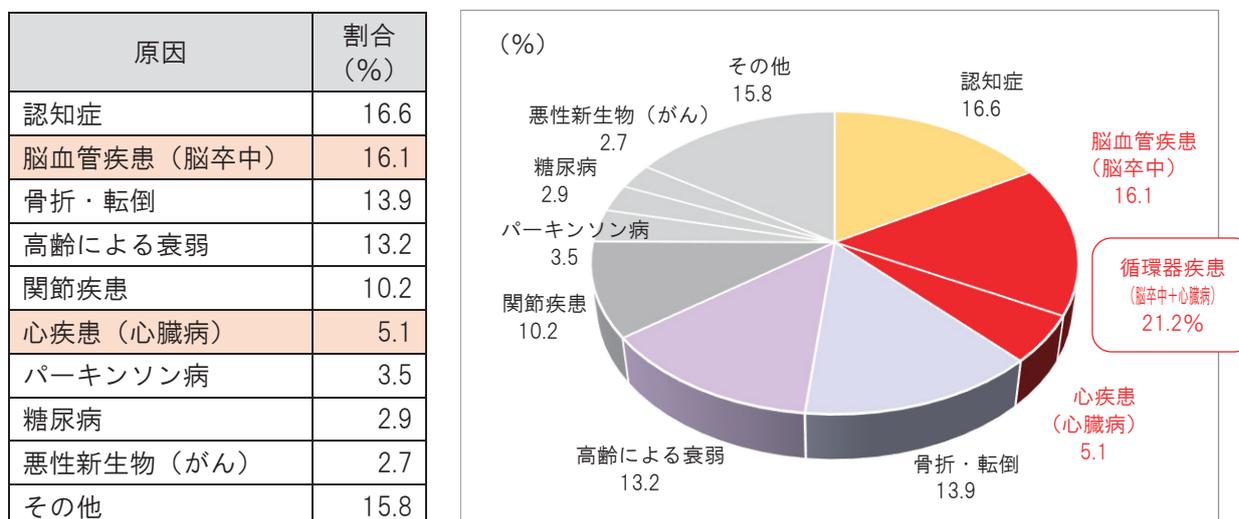
循環器病は要介護となる最大の原因疾患

国民生活基礎調査（令和4（2022）年）によると、介護が必要となった主な原因疾患は、脳血管疾患が16.1%、心疾患が5.1%で、両者をあわせると全体の21.2%を占め、最大の原因疾患となっています。

特に、要介護4と5では第1位となっています。また、脳血管疾患発症後に認知症機能障害の合併率が上昇し、介護負担が増加することも大きな問題です。

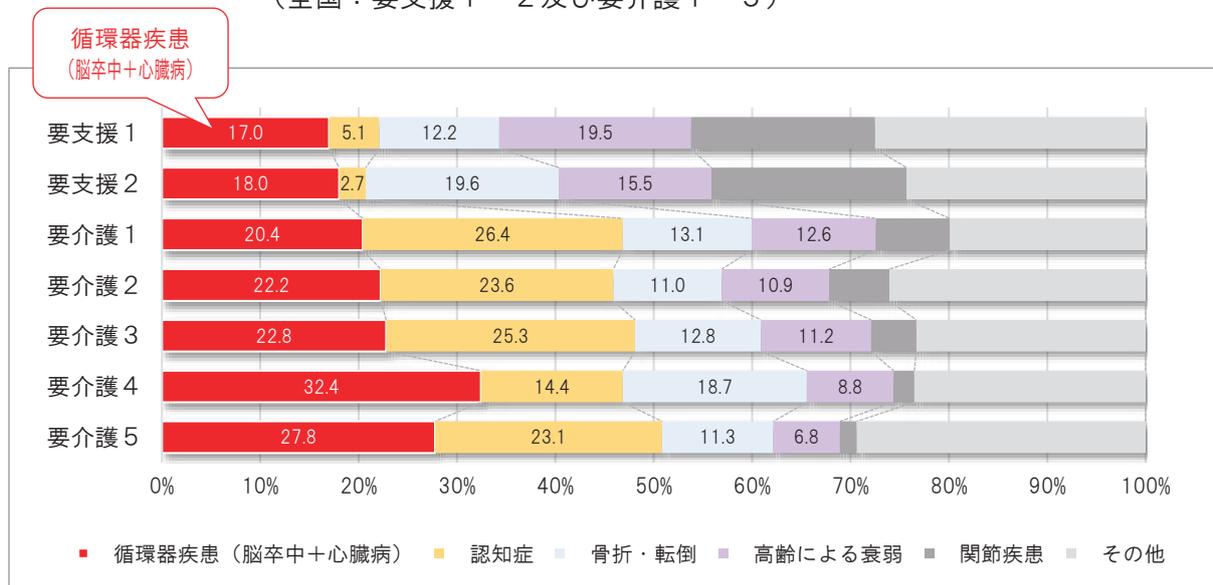


《図表2-6-1》介護が必要となった主な原因別割合（全国：要支援1・2及び要介護1～5）



出典 2022（令和4）年 国民生活基礎調査の概況

《図表2-6-2》現在の要介護度別にみた介護が必要となった主な原因の構成割合（全国：要支援1・2及び要介護1～5）



第7節 医療費の推移

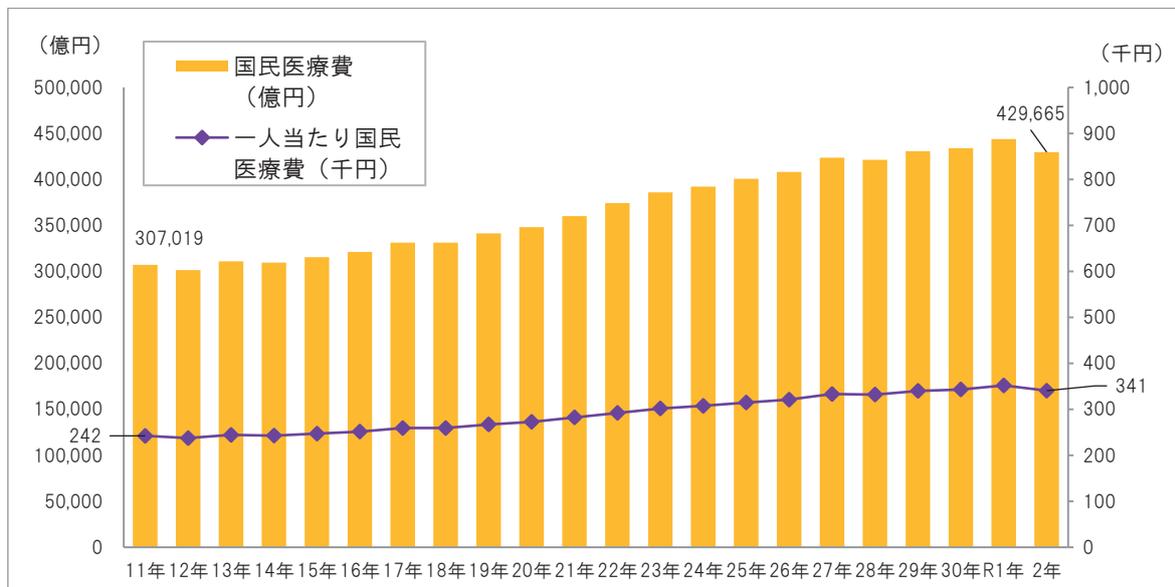
医療費：循環器系の疾患が占める割合が最多

全国の医療費は年々増加しており、令和2（2020）年度は国民医療費 42兆 9,665 億円となっています。人口一人当たりの国民医療費は、平成 11（1999）年度が 24 万 2 千円、令和2（2020）年度が 34 万 1 千円で、約 1.4 倍となっています。

令和2（2020）年度の傷病分類別医科診療医療費（歯科、薬局調剤費等を除く）を見ると、総額 30兆 7,813 億円のうち、循環器系の疾患が占める割合は 6兆 21 億円（19.5%）で最も多くなっています。なお、65 歳以上に限定するとその割合は 24.2%になります。

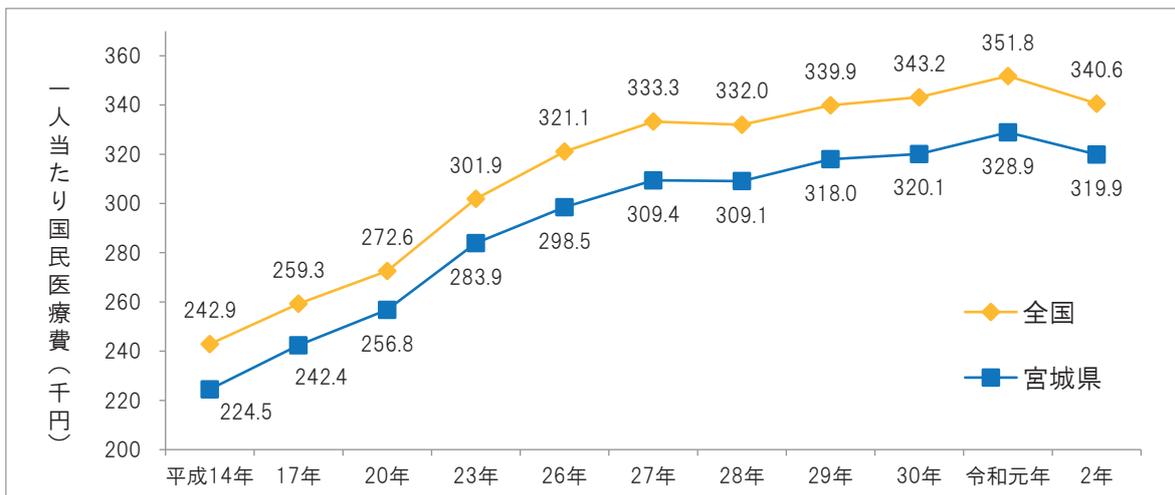


《図表 2-7-1》国民医療費の推移と一人当たりの推移（全国）（令和2（2020）年度）

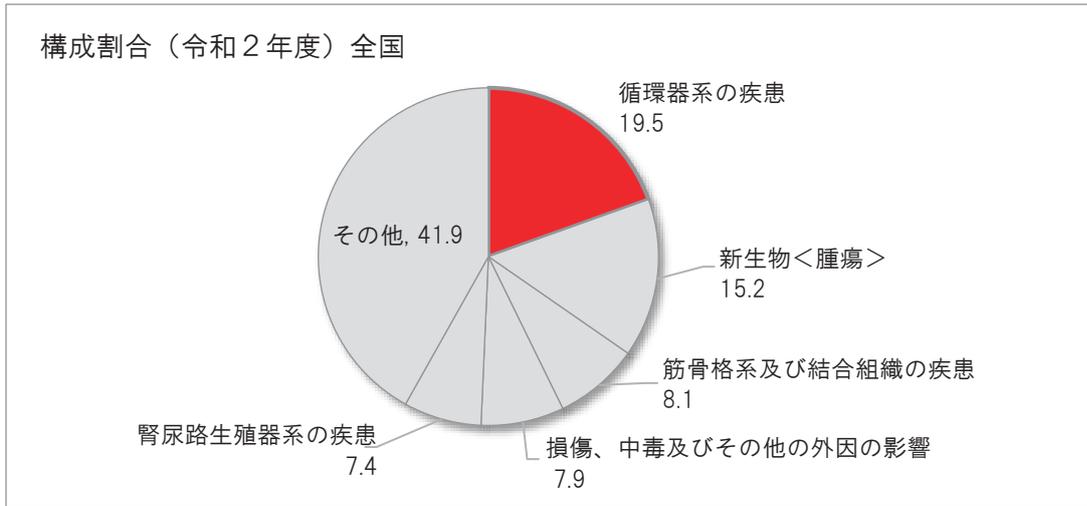


出典 国民医療費の概況（令和2（2020）年度）

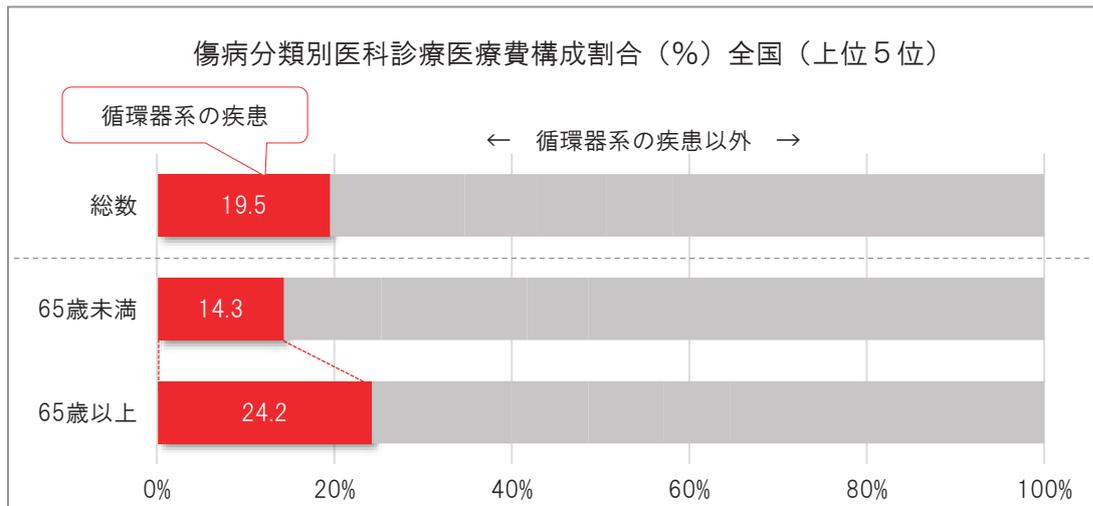
《図表 2-7-2》一人当たりの国民医療費の推移（県、全国）



《図表2-7-3》傷病分類別医科診療医療費（令和2（2020）年度）全国



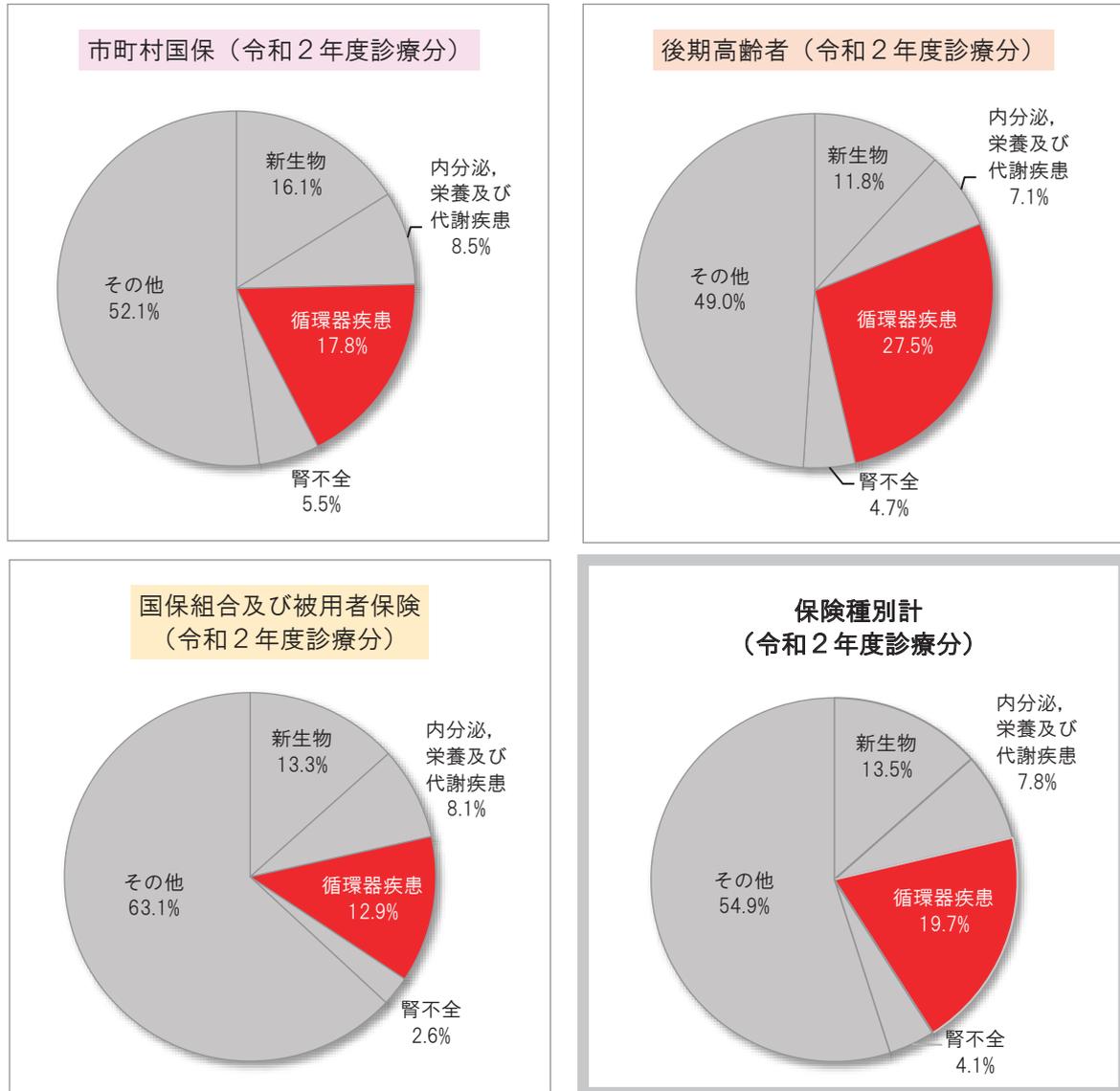
令和2（2020）年度 全国	順位	医科診療医療（億円）	構成割合（%）
総数		307,813	100.0
循環器系の疾患	1	60,021	19.5
新生物<腫瘍>	2	46,880	15.2
筋骨格系及び結合組織の疾患	3	24,800	8.1
損傷、中毒及びその他の外因の影響	4	24,274	7.9
腎尿路生殖器系の疾患	5	22,733	7.4
その他 ※	—	129,105	41.9



出典 国民医療費の概況 ※ 上位5傷病以外の傷病

宮城県でも循環器系の疾患が最多

宮城県の医療費を疾病別に見ると、循環器疾患が全体に占める割合は市町村国保、後期高齢者医療で第一位の疾病となっています。特に後期高齢者医療においては、全体の27.5%（令和2年度）と非常に大きい割合を占めています。



出典 NDB都道府県別データセット疾病別内訳(令和2年度診療分)

※「その他」は新生物、内分泌、栄養及び代謝疾患、循環器疾患、腎不全以外の疾病の医療費を指す。

※「被用者保険」は全国健康保険協会、船員保険、健康保険組合、共済組合の合計を指す。

公的医療保険制度の種類

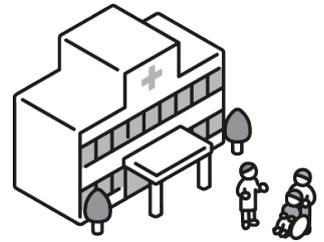
- 1 被用者保険（全国健康保険協会（協会けんぽ）、船員保険、健康保険組合、共済組合）
（会社員や公務員などが加入）
- 2-1 国民健康保険（市町村国保）
（主に自営業者、農業、無職などが加入）
- 2-2 国民健康保険組合（国保組合）
（特定の職種についている人が加入：医師など）
- 3 後期高齢者医療制度
（75歳以上、65歳以上75歳未満で一定の障がいのある高齢者が加入）



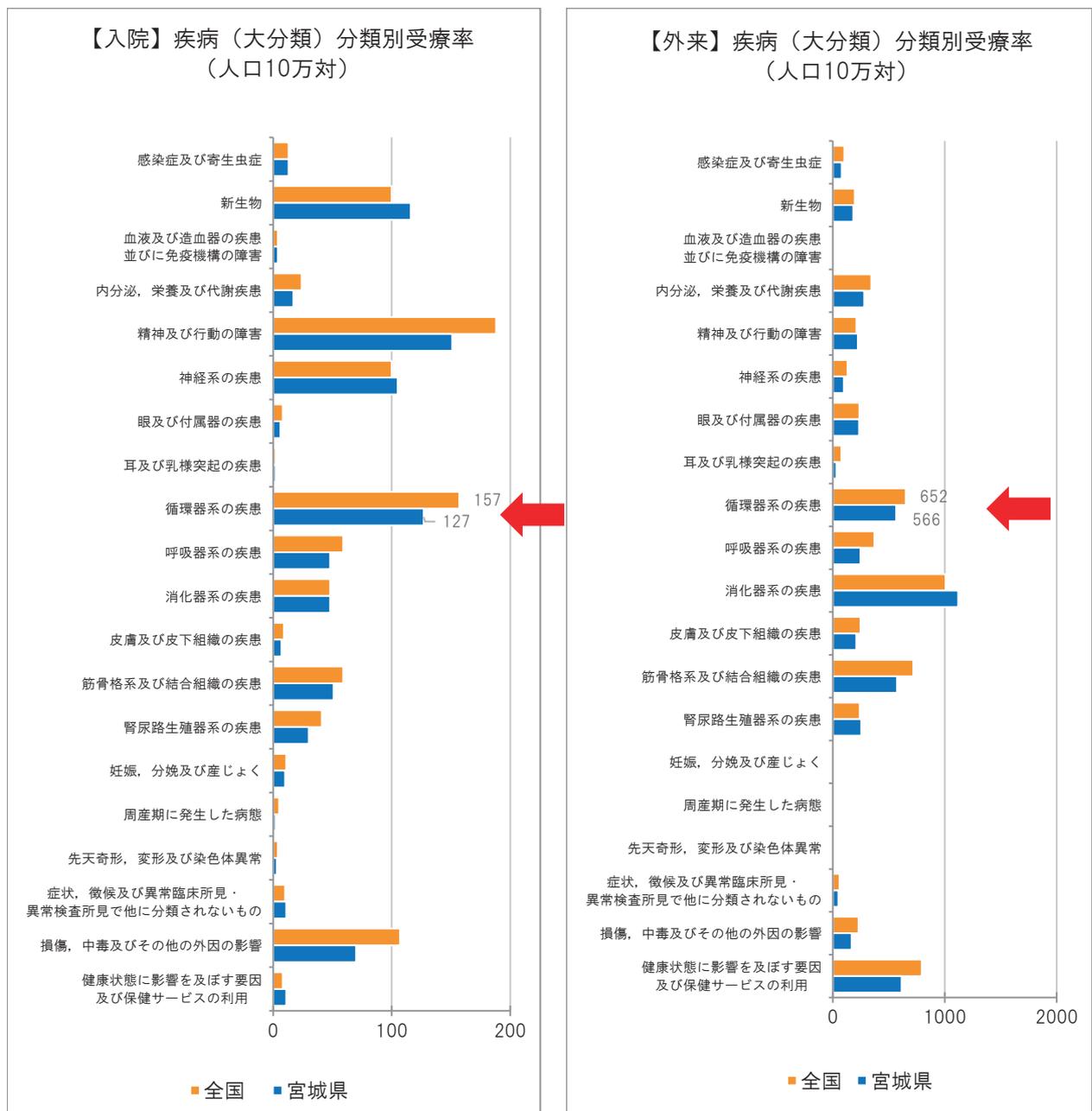
第8節 受療率

循環器疾患で医療機関を受診 全体の第2位

疾病分類別受療率（人口10万対）（令和2（2022）年）で「循環器系の疾患」を見ると、入院では「精神及び行動の障害」に続き第2位、外来では「消化器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」に続き第3位となっています。全国と比較すると、入院、外来ともに全国より低くなっています。



《図表2-8-1》傷病分類別の受療率（人口10万対）県・全国



出典 令和2年患者調査（厚生労働省）

《図表2-8-2》循環器系の疾患の受療率（人口10万対）の全国値との比較（表）

区分	全国			宮城県		
	入院 外来 計	入院	外来	入院 外来 計	入院	外来
		総数	総数		総数	総数
循環器系の疾患	809	157	652	693	127	566
高血圧性疾患（再掲）	475	4	471	425	2	423
（心疾患（高血圧性のものを除く））（再掲）	149	46	103	127	44	83
虚血性心疾患（再掲）	51	9	42	39	11	28
脳血管疾患（再掲）	157	98	59	120	73	47

出典 令和2年患者調査（厚生労働省）

「患者調査」とは？

厚生労働省が、医療施設を利用する患者について、その傷病の状況などを調査するもので、調査は3年ごとに実施します。令和2年の調査では、全国の医療施設のうち、病院6,284施設、一般診療所5,868施設、歯科診療所1,277施設を抽出し、これらの施設を利用した入院・外来患者約211万人、退院患者約104万人が対象となりました。なお、入院・外来患者は令和2年10月の医療施設ごとに指定した1日、退院患者は令和2年9月の1か月間を調査期間としました。（令和2年患者調査（確定数）の概況から引用）

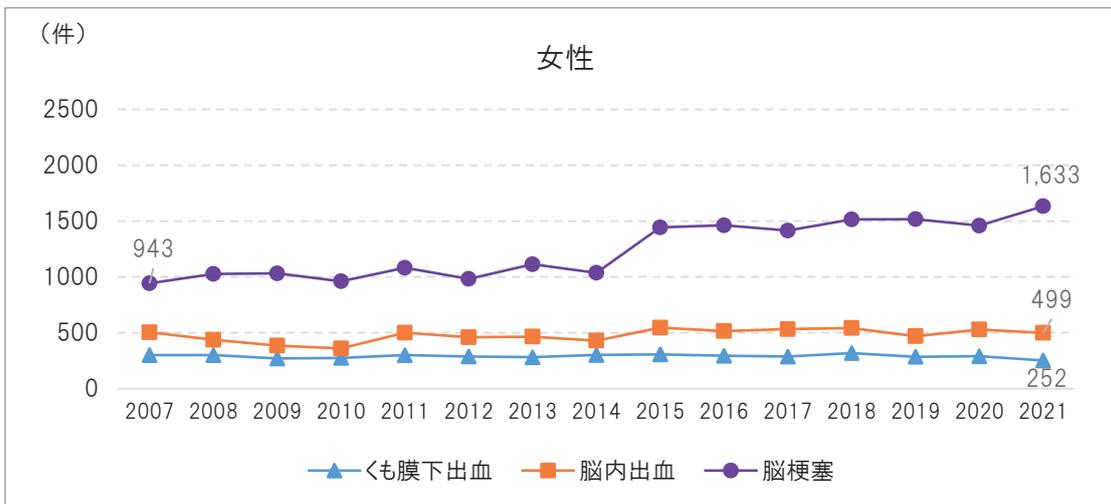
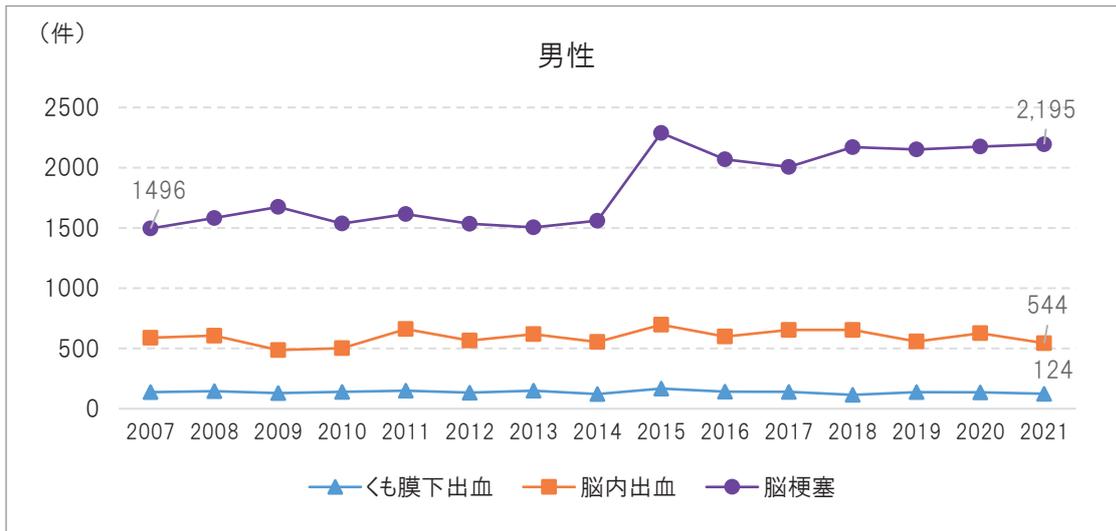
「受療率」とは？

推計患者数（調査日当日に、医療施設で受療した患者の推計数）を人口10万対であらわした数です。（受療率＝推計患者数／国勢調査人口×100,000）

● (参考) 脳卒中の発症

宮城県脳卒中発症登録（令和3（2021）年）によれば、脳卒中発症のうち最も多いのは脳梗塞で、続いて脳内出血やくも膜下出血となっています。近年、脳梗塞の占める割合、件数が増えています。

《図表2-8-3》2007-2021 脳卒中の病型別発症登録数推移（県）



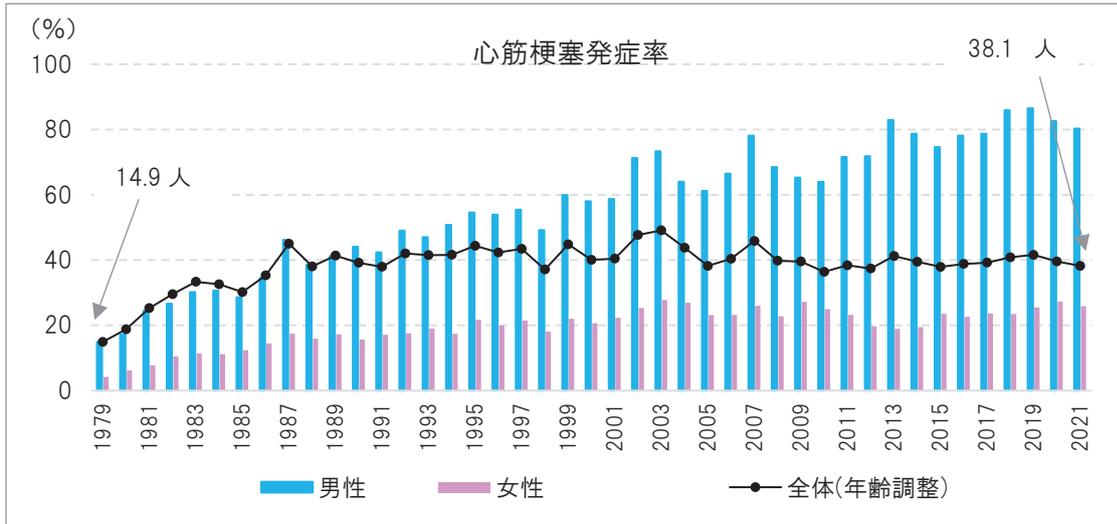
出典 宮城県脳卒中発症登録 2021 年
（年度により全数報告ではありません）

● (参考) 急性心筋梗塞の発症

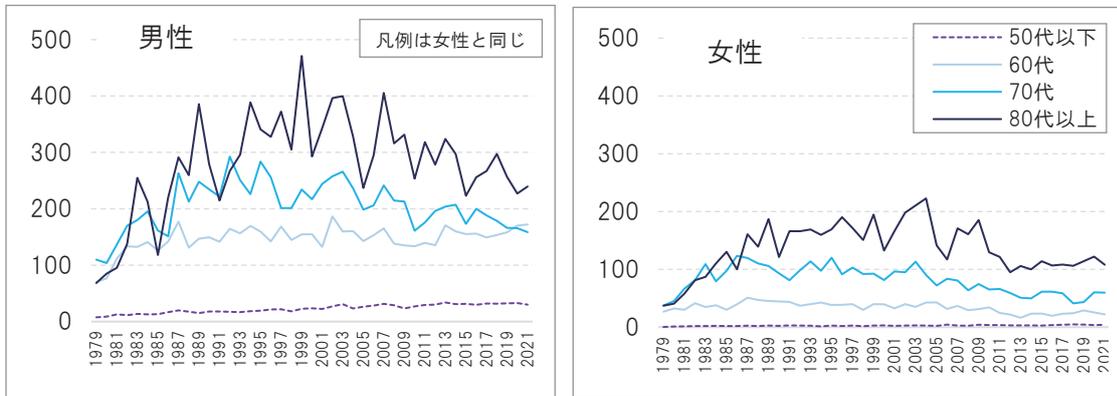
宮城県急性心筋梗塞調査報告書(2021年)による分析では、宮城県における急性心筋梗塞の発症頻度は、昭和54(1979)年には人口10万人当たり14.9人の発症率でしたが、令和3(2021)年には38.1人と約2.6倍に増加しています。

また、近年、高齢者の発症が減少傾向となっている一方で、59歳以下の若い世代での発症が男女ともに増加傾向となっています。

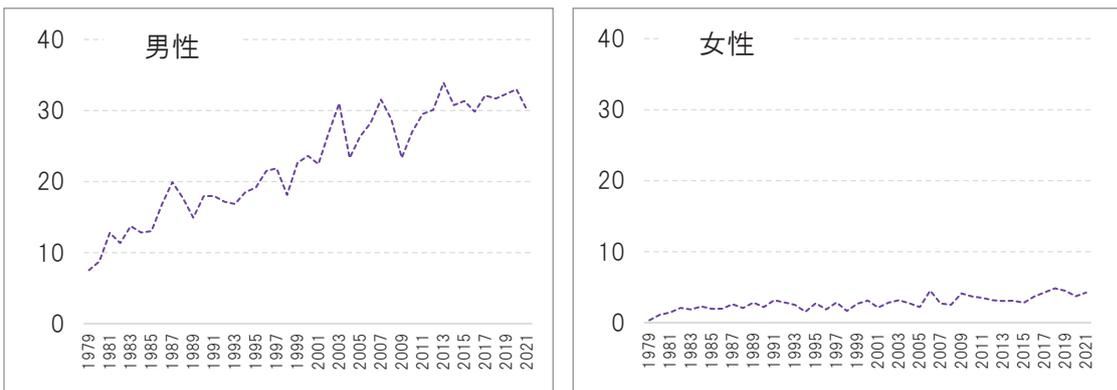
《図表2-8-4》1979-2021 心筋梗塞発症率(人口10万対)の推移(県)



《図表2-8-5》年代別の急性心筋梗塞発症数の推移(人口10万対)(県)



《図表2-8-6》59歳以下の急性心筋梗塞発症数の推移(人口10万対)(県)



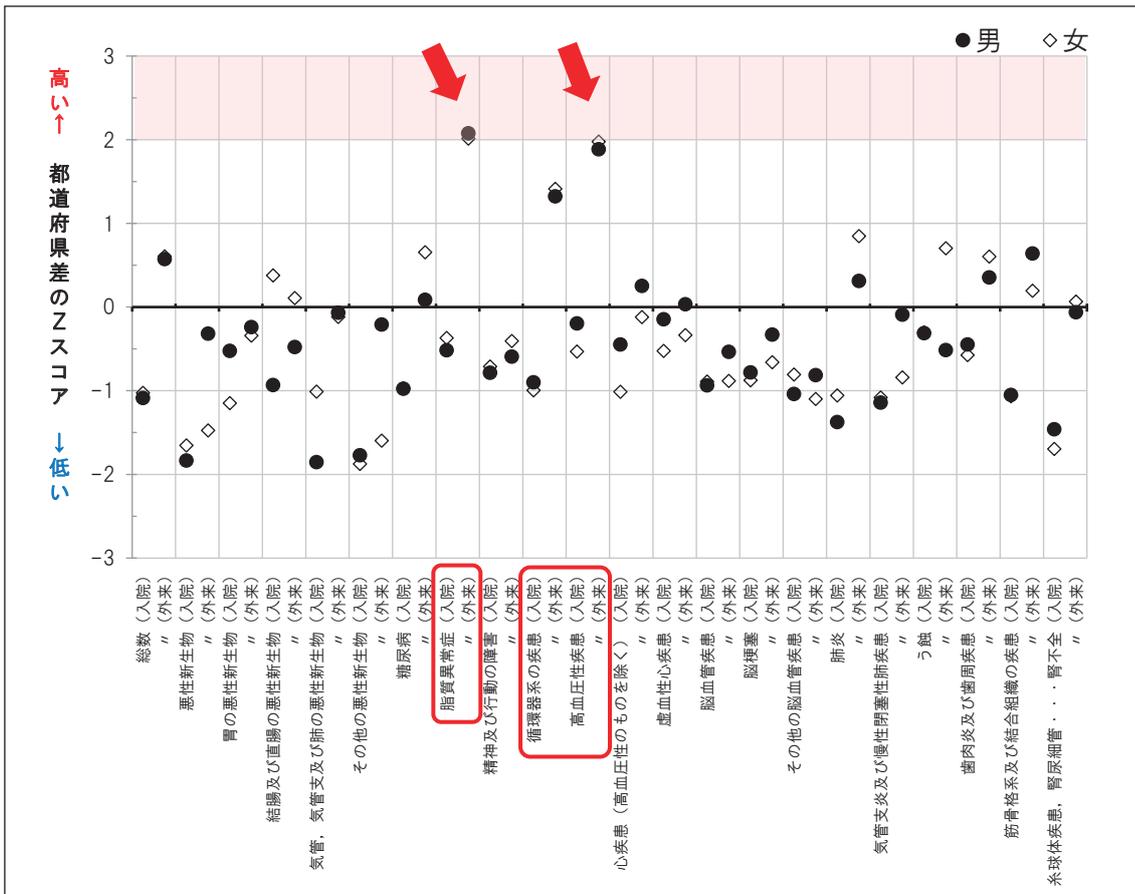
出典 急性心筋梗塞調査報告書

● 参考データ

47都道府県間で比較すると宮城県は循環器病に関する疾患での外来受療率が高い

国立保健医療科学院が公表している「各種統計資料等からみた都道府県の健康状態の特徴要約」によれば、外来での脂質異常症、高血圧性疾患、循環器系の疾患の受療率が全国的にみても高い位置にあります。

平成 29 年患者調査 年齢調整受療率（入院・外来）の特徴要約（県）



【表の見方】

Zスコアは 47 都道府県間での偏差値のような指標であり、その解釈は、おおむね以下のとおりです。

- ±0.5 全国都道府県でほぼ平均的・・・偏差値 50 相当
- ±1.0 上（下）位 6 分の 1・・・偏差値 60 相当
- ±2.0 ほとんどトップ・・・偏差値 70 相当
- ±3.0 突出している・・・偏差値 80 相当

出典：地方自治体における生活習慣病関連の健康課題把握のための参考データ・ツール集
各種統計資料等からみた都道府県の健康状態の特徴要約
「平均寿命、健康寿命、年齢調整受療率（入院・外来）」
国立保健医療科学院生涯健康研究部 横山先生からの提供データを一部改変

第9節 各圏域の状況

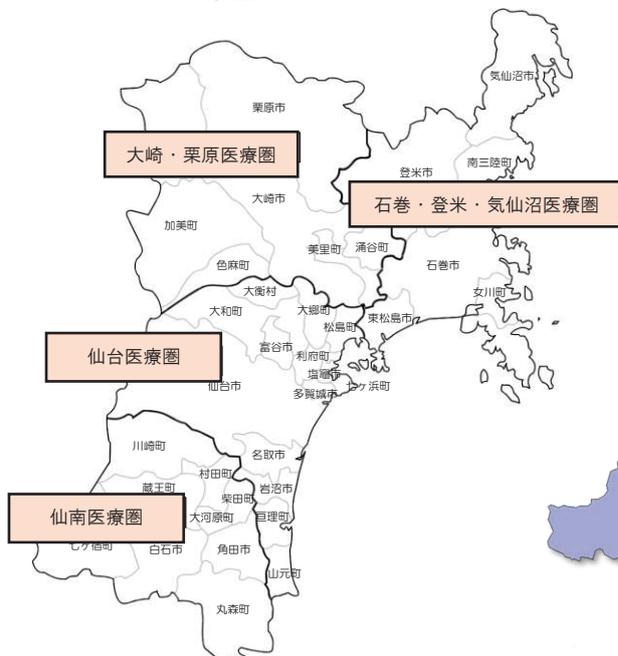
● 二次医療圏と各保健所・支所圏域

二次医療圏とは、特殊な医療を除く一般的な入院医療サービスを提供する医療圏をいいます。複数の市町村を一つの単位として設定されています。宮城県では、4つの医療圏を設定しています。

また、保健所及び支所は、県では9か所、仙台市では1か所（各区にも支所がありますが、この計画では仙台市は一つの保健所圏域とします）が設置されています。そのため、保健所・支所単位での圏域とした場合には、仙台医療圏は、仙台市保健所、塩釜保健所、岩沼支所、黒川支所の4か所に分割されます。第2期計画では、各圏域の現状や課題についても記載します。

二次医療圏	保健所・支所	管轄市区町村
仙南	仙南保健所	白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町
仙台	仙台市保健所	仙台市
	塩釜保健所	塩竈市、多賀城市、松島町、七ヶ浜町、利府町
	岩沼支所	名取市、岩沼市、亶理町、山元町
	黒川支所	富谷市、大和町、大郷町、大衡村
大崎・栗原	大崎保健所	大崎市、加美町、色麻町、涌谷町、美里町
	栗原支所	栗原市
石巻・登米・気仙沼	石巻保健所	石巻市、東松島市、女川町
	登米支所	登米市
	気仙沼保健所	気仙沼市、南三陸町

二次医療圏



保健所・支所圏域



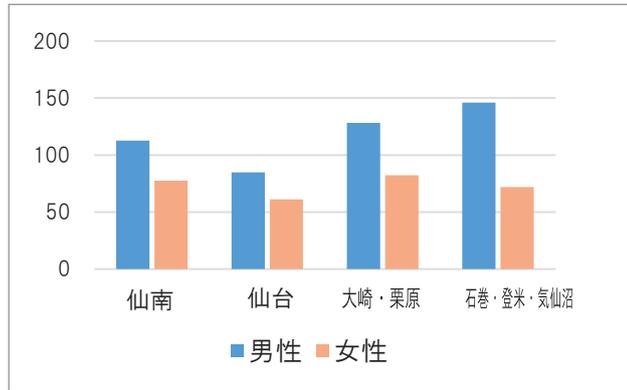
1 年齢調整死亡率と標準化死亡比

● 脳血管疾患

宮城県の脳血管疾患の年齢調整死亡率を二次医療圏別、標準化死亡比(※)を保健所・支所圏域別にみると、仙台市及びその周辺の圏域とそれ以外の圏域では、その差が大きくなっています。特に年齢調整死亡率では、県北地域(大崎・栗原、石巻・登米・気仙沼医療圏)の男性が高くなっており、標準化死亡比で見ても、全国値に比べ高い値となっています。

《図表2-9-1》脳血管疾患の年齢調整死亡率(人口10万対):医療圏別(令和3(2021)年)

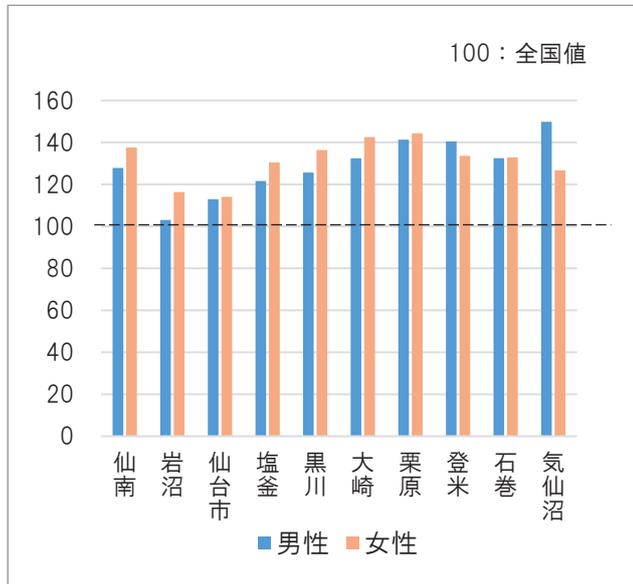
二次医療圏	脳血管疾患	
	男性	女性
仙南	112.6	77.6
仙台	84.9	61.1
大崎・栗原	128.3	82.3
石巻・登米・気仙沼	146.0	72.0



出典 令和2年国勢調査結果(総務省)及び
令和2年衛生統計年報(県)から算出

《図表2-9-2》脳血管疾患の標準化死亡比EBSMR:圏域別(令和2(2020)年)

保健所・支所圏域	脳血管疾患	
	男性	女性
(全国値)	100	100
仙南保健所圏域	127.8	137.6
岩沼支所圏域	103.0	116.3
仙台市保健所圏域	112.9	114.1
塩釜保健所圏域	121.6	130.4
黒川支所圏域	125.6	136.4
大崎保健所圏域	132.4	142.5
栗原支所圏域	141.3	144.4
登米支所圏域	140.5	133.6
石巻保健所圏域	132.5	132.8
気仙沼保健所圏域	149.8	126.7



出典 データからみたまやぎの健康
(令和4年度版) 宮城県保健福祉部

※ 年齢構成の差を取り除き地域の比較を行うための指標として、標準化死亡比(SMR)がありますが、小地域間の比較や経年的な動向を標準化死亡比で見ると、死亡数が少ないと数値が大きく変動してしまいます。そのため、観測データ以外にも対象に関する情報を推定に反映させることが可能な「経験的ベイズ推定 EBSMR」を使用しました。当該市町村のEBSMRが100より大きい場合は、全国と比べて出現割合が高いことを示しています。

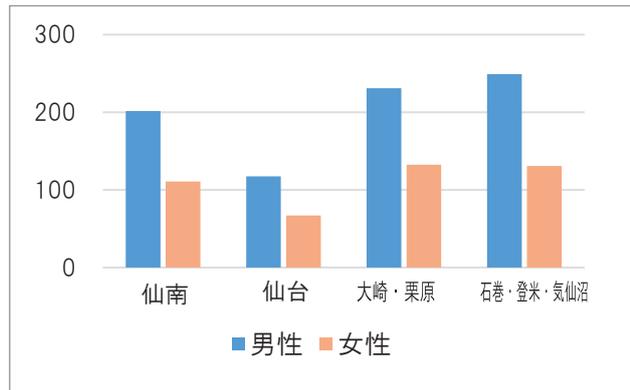
● 心疾患

宮城県の心疾患の年齢調整死亡率を二次医療圏別、標準化死亡比を保健所・支所圏域別にみると、仙台市及びその周辺の圏域とそれ以外の圏域では、その差が大きくなっています。特に年齢調整死亡率では、県北地域（大崎・栗原、石巻・登米・気仙沼医療圏）の男性では高くなっており、標準化死亡比でも、全国値に比べ高い値となっています。

《図表 2-9-3》心疾患の年齢調整死亡率（人口10万対）：医療圏別（令和3(2021)年）

二次医療圏	心疾患	
	男性	女性
仙南	201.5	110.8
仙台	117.4	67.1
大崎・栗原	230.9	132.5
石巻・登米・気仙沼	249.1	130.9

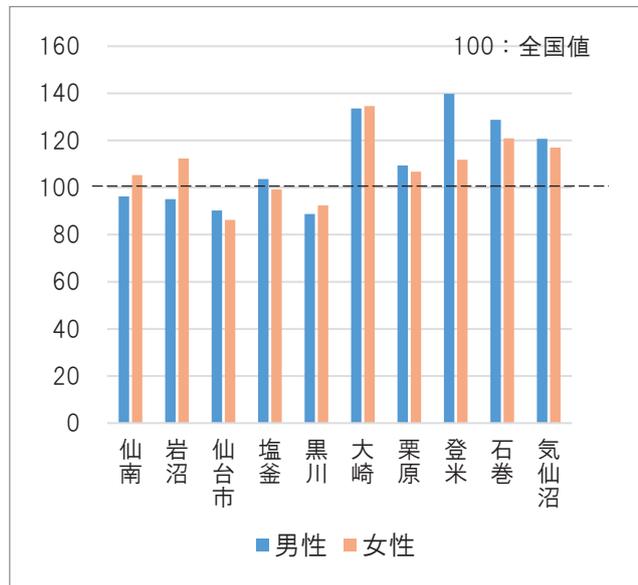
出典 令和2年国勢調査結果（総務省）及び
令和2年衛生統計年報（県）から算出



《図表 2-9-4》心疾患の標準化死亡比 EBSMR：圏域別（令和2(2020)年）

保健所・支所圏域	心疾患	
	男性	女性
(全国値)	100	100
仙南保健所圏域	96.2	105.3
岩沼支所圏域	95.1	112.3
仙台市保健所圏域	90.2	86.3
塩釜保健所圏域	103.6	99.2
黒川支所圏域	88.8	92.4
大崎保健所圏域	133.5	134.6
栗原支所圏域	109.4	106.7
登米支所圏域	139.8	111.8
石巻保健所圏域	128.7	120.9
気仙沼保健所圏域	120.7	117.0

出典 データからみたまやぎの健康
(令和4年度版) 宮城県保健福祉部

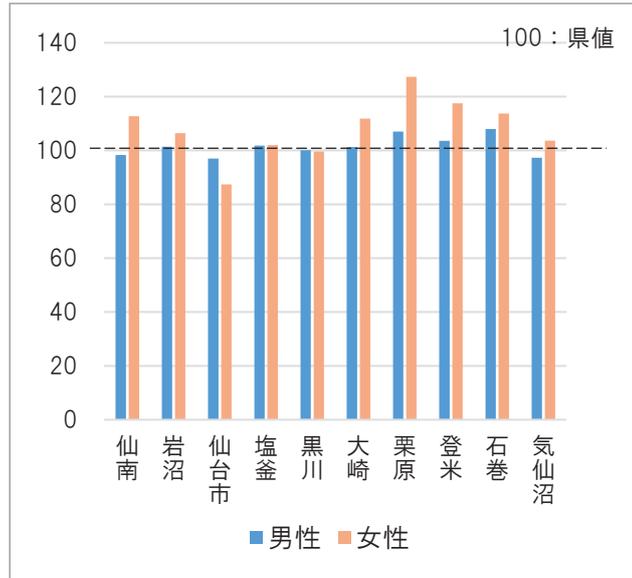


2 メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合

宮城県のメタボリックシンドローム該当者及び予備群の標準化該当比(※)を保健所・支所圏域別にみると、男性では、栗原、登米、石巻圏域で、県平均に比べ高くなっています。また女性では、栗原、登米、石巻圏域に加え、仙南、岩沼、大崎圏域において県平均に比べ高い値になっています。

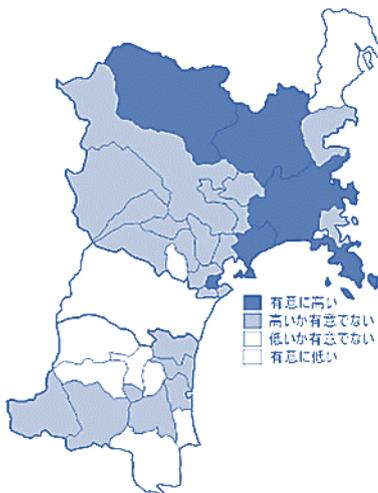
《図表2-9-5》特定健診有所見者（メタボリックシンドローム該当者及び予備軍）の標準化該当比：療圏別（令和2(2020)年）【市町村国保+協会けんぽ】

保健所・支所圏域	メタボ割合	
	男性	女性
(県値)	100	100
仙南保健所圏域	98.3	112.7
岩沼支所圏域	101.4	106.5
仙台市保健所圏域	97.0	87.4
塩釜保健所圏域	101.8	102.0
黒川支所圏域	100.1	99.6
大崎保健所圏域	101.3	111.8
栗原支所圏域	107.0	127.4
登米支所圏域	103.6	117.5
石巻保健所圏域	108.0	113.8
気仙沼保健所圏域	97.3	103.7

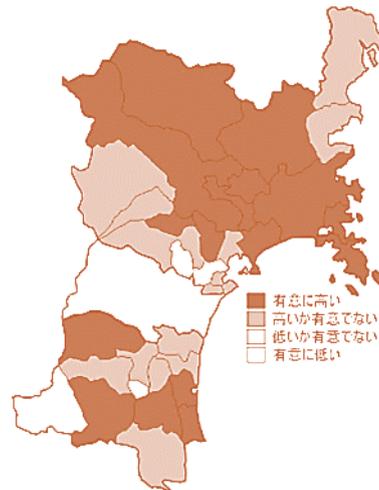


出典 データからみたまやぎの健康
(令和4年度版) 宮城県保健福祉部

市町村別マップ（男性）



市町村別マップ（女性）



※ 特定健診の有所見率を年齢構成による差を取り除き、市町村間比較するために平均を100として相対値で表したもので、当該市町村の標準化該当比が100より大きい場合は、平均と比べ出現割合が高いことを示しています。
(栗原圏域は令和2年度の市町村国保の特定健診実施がなかったため「協会けんぽ」のデータのみを用いて抽出)

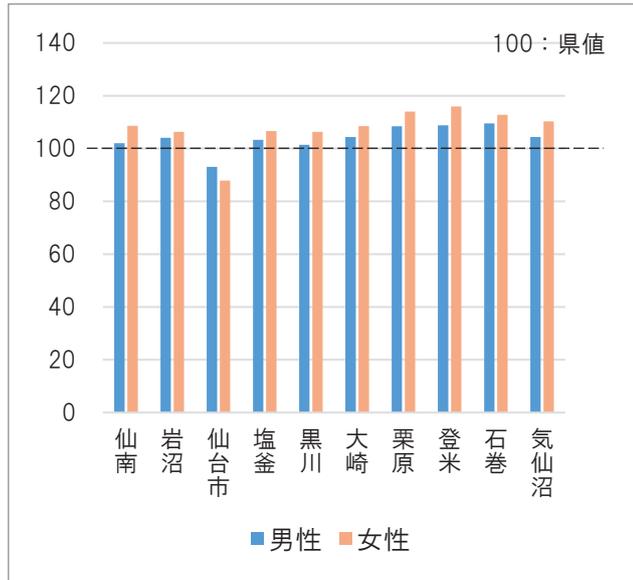
3 血圧

宮城県の高血圧の標準化該当比を保健所・支所圏域別にみると、男女ともに、仙台市以外の圏域において、県平均に比べ高い値になっています。

《図表 2-9-6》特定健診有所見者（高血圧）の標準化該当比：療圏別（令和2(2020)年）
【市町村国保+協会けんぽ】

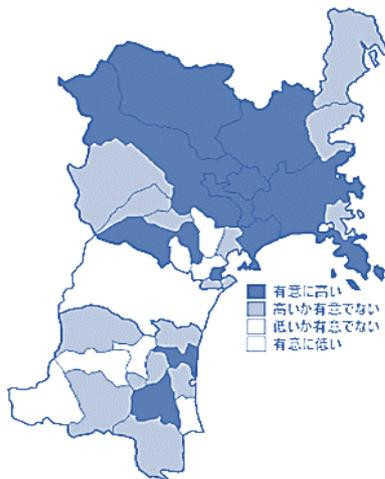
（有所見者（高血圧）：収縮期血圧 130 mm Hg 以上または拡張期血圧 85 mm Hg 以上）

保健所・支所圏域	高血圧	
	男性	女性
（県値）	100	100
仙南保健所圏域	102.0	108.6
岩沼支所圏域	104.1	106.3
仙台市保健所圏域	93.1	87.9
塩釜保健所圏域	103.3	106.6
黒川支所圏域	101.4	106.3
大崎保健所圏域	104.4	108.5
栗原支所圏域	108.4	114.0
登米支所圏域	108.8	115.9
石巻保健所圏域	109.5	112.8
気仙沼保健所圏域	104.4	110.3

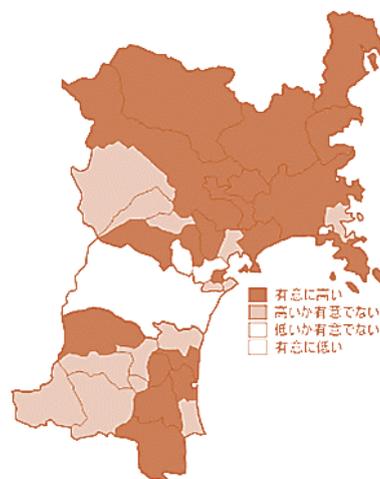


出典 データからみたまやぎの健康
（令和4年度版） 宮城県保健福祉部

市町村別マップ（男性）



市町村別マップ（女性）



宮城県民の健康状態と病気進行のイメージ

不健康な生活習慣



- 塩分取りすぎ!
- 野菜食べない!
- 歩かない!
- たばこ吸う!



全て全国平均以下、又は全国最下位クラス



メタボリックシンドローム

- 血圧が高い
- コレステロール値が高い
- 血糖値が高い
- 肥満が多い



高血圧が多い

特定保健指導受診率が低い

全国的に高い(悪い)

発症

高血圧症

脂質異常症

糖尿病

動脈硬化進行



緊急搬送

心筋梗塞

脳卒中

大動脈瘤

要介護の原因

搬送時間が長い

心不全

要介護

循環器病による死亡

予防から医療・介護まで

切れ目のない循環器病対策の推進

